

基本目標3：豊かな子ども時代をすごすための社会づくり

担当(局)	子ども未来局	子ども未来局	子ども未来局	子ども未来局
担当(部)	子ども育成部	子ども育成部	子ども育成部	子ども育成部
基本目標 - 基本施策	3-1	3-1	3-1	3-1 (再掲 2-4-4)
事業名	「(仮称)札幌市子どもの権利条例」の制定及び推進	「子どもの権利条例」啓発事業	子ども議会	私たちの児童会館づくり事業
事業概要	札幌の未来を担う子ども一人ひとりの権利を守り育むため、「子どもの権利条例」について広く市民議論を高めるとともに「(仮称)子どもの権利条例」を制定(平成18年度制定予定)し、子どもの権利擁護の推進を図る。	18歳未満のすべての人の保護と基本的人権の尊重の促進を目的としている「子どもの権利条例」に関して、各種啓発事業を推進することにより、市民の認識を深め、問題意識の醸成を図る。	未来を担う子どもたちに札幌のまちづくりについて考えてもらい、市政への参加と理解を促進する機会とするとともに、子どもが主体となる議会とし、議会を通じて子どもの権利条例の意見表明権などを体現する場として、権利条例について市民への啓発、議論の喚起を促す。	屯田北地区に整備予定の児童会館をモデルとして、児童会館のハード・ソフト両面にわたり、子どもが自ら参加し、主体的に関わる仕組みをつくることによって意見の反映を図るとともに、地域活動等に対する関心を育む。また、既存の児童会館の運営等にも順次子ども版運営委員会の導入を図り、子どもたちのための児童会館づくりも目指す。
指標	【子どもの権利条例に関する認知度】	【子どもの権利条例に関する認知度】	【参加者数】	【子ども版運営委員会実施施設数】
初期値 (計画掲載)	15年度:14.3%	15年度:14.3%	15年度:65人	16年度:1か所
目標値	21年度:40%	21年度:40%	21年度:70人	21年度:21か所
16年度実績			69人	1か所
17年度実績			66人	3か所
18年度実績			55人	12か所
18年度実施状況等	<p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの権利条例制定検討委員会(17年4月設置)において、懇談会、出向き調査、市民との意見交換会、子ども委員会での話し合いの内容などをもとに、最終答申書が取りまとめられ、5月30日に市長に提出された。</li> <li>子どもの権利条例子ども委員会(18年2月設置)において、「子どもにとって大切な権利」などが議論され、検討委員会との意見交換を実施した。委員会での話し合いの内容については「子どもの権利提案書」として取りまとめられ、7月24日に発表が行われた。</li> <li>検討委員会の最終答申をもとに条例素案を策定し、7月3日～8月1日まで意見募集(パブリックコメント)を実施し、期間中、3,504人の市民から意見が寄せられた。</li> <li>パブリックコメントに寄せられた意見や、市議会での議論などをふまえて素案を修正し、19年第1回定例市議会に条例案を提出したが、賛成少数のため否決となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの権利条例の啓発事業として、条例パンフレットの小学生、中学生への配布、人形劇を用いた各区子どもフォーラムなどを実施した。</li> <li>条例の普及と併せて、条例づくりについても、ニュースレター、ホームページ、新聞広告、テレビ・ラジオ番組などの活用のほか、パネル展、出前講座の実施など、様々な方法を用いて、広報活動を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の小学5年生から高校2年生の子ども議員が、札幌市議会と同じ6つの常任委員会(総務、財政市民、文教、厚生、建設、経済)に分かれて、札幌市に対しての提案を行い、市長をはじめ、副市長・関係局長等が答弁をした。</li> <li>18年度は、高校生が新たに子ども議員として参加したほか、子どもたちの活動をサポートする大学生等11人もスタッフとして参加した。</li> </ul> <p>○提案のための委員会8回 ・実施日 18年9月～12月</p> <p>○本会議 ・実施日 19年1月11日(木) ・場所 札幌市議会議場 ・主な提案 「円山動物園について」 「税金、まちづくりについて」 「学校の先生、いじめ、児童会館について」 「心のバリアフリーについて」 「除雪パートナーシップの普及について」 「札幌市の農業について」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども運営委員会を9館(幌西、元町、栄西、柏丘、中の島、清田、常盤、山の手、西宮の沢児童会館)に設置。</li> <li>その他は継続実施。</li> </ul>
19年度見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>条例制定について、さらなる市民の理解を得るために、イラスト等を用いたパンフレットを作成し、積極的に市民周知を進めていく。</li> <li>学識経験者や公募市民などで構成する「子どもの権利条例検討会議」を設置し、子どもの権利侵害からの救済制度を中心に、条例全体について幅広く審議を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>18年度に引き続き、ニュースレターの発行、パネル展の開催、人形劇を交えた子どもフォーラムなどを行う。</li> </ul>	<p>19年度も、18年度と同様に実施する。</p>	<p>子ども運営委員会60館(新規設置48館。内訳としてミニ児童会館10館も含む。) 北郷児童会館改築子ども検討委員会の発足</p>
備考 (特記事項)				

基本目標3：豊かな子ども時代をすごすための社会づくり

担当(局)	子ども未来局	子ども未来局	子ども未来局	保健福祉局
担当(部)	子ども育成部	子ども育成部	児童福祉総合センター	健康衛生部
基本目標 - 基本施策	3-2	3-2	3-2	3-2
事業名	青少年育成委員会事業	心豊かな青少年をはぐむ 札幌市民運動	児童虐待予防・防止連絡会議	区児童虐待予防・防止 ネットワーク事業
事業概要	地域における青少年育成を推進する担い手として、連合町内会単位に各地区青少年育成委員会を設置(90地区・1,800人)し、文化体験・スポーツ大会など青少年に関わる健全育成事業や地域における環境対策事業を推進する。	これまでの「非行化防止」から「健全育成」を重点とした市民運動の推進のため、全市的な取組としての「青少年を見守る店」の登録推進運動の展開や市内の全市立中学校に「中学校区青少年健全育成推進会」を設置し、各地域での啓発活動を展開する。	虐待予防・防止に関して活動を行っている関係機関を一堂に集め、情報の共有化、事例検討等を行い連携の強化を図る。	各区保健センターにおいて、児童虐待の予防・防止、早期発見及び虐待事例への円滑な支援を行う地域ネットワークを構築するために、関係機関代表者による連絡調整会議、事例検討会、研修会等を行う。
指標		【「青少年を見守る店」 登録店数】	【開催回数】	
初期値 (計画掲載)		15年度:6,388店	15年度:年2回	
目標値		21年度:7,200店	21年度:年2回	
16年度実績		6,200店	2回開催	
17年度実績		6,222店	2回開催	
18年度実績		6,253店	2回開催	
18年度実施状況等	<p>○多様な体験機会や社会参加の場を提供する事業の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ事業</li> <li>・文化体験事業</li> <li>・レクリエーション事業 など</li> </ul> <p>○環境対策事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域安全パトロール</li> <li>・子どもにとって有害な環境の排除活動</li> <li>・地域安全マップづくり など</li> </ul> <p>○子どもたちの健全な育成のための啓発活動及び学習会の開催 関係団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会議・情報交換</li> <li>・共催事業の開催</li> <li>・関係団体の活動支援 など</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係団体が実施している青少年健全育成に係る研修会への参加</li> <li>・成人の日行事 など</li> </ul>	<p>○7月の「心豊かな青少年をはぐむ札幌市民運動強調月間」にあわせ各地域で一斉に「青少年を見守る店」の登録活動を展開した。登録推進運動は年間を通して実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施団体:各地区青少年育成委員会、各中学校区青少年健全推進会</li> <li>・登録活動:登録依頼のチラシ約1万枚及び登録店ステッカー約5千枚を各地域で配付した。</li> <li>・広報活動:広報紙「あしと」で「青少年を見守る店」を紹介し、子どもや地域住民への周知を図った。</li> </ul>	<p>第1回 実施日:18年8月8日 場所:市児童福祉総合センター 報告事項等: ①北海道子どもの虐待防止協会の活動状況 ②市健康衛生部の活動状況 ③児童相談所の虐待相談処理状況 ④その他各機関の活動状況 ⑤事例紹介</p> <p>第2回 実施日:19年3月13日 場所:市児童福祉総合センター 報告事項等: ①興正子ども家庭支援センターの活動状況 ②市教育委員会の取組について ③市の通告受理状況及び国の19年度児童虐待防止対策について ④その他各機関の活動状況等 ⑤事例紹介</p>	<p>1 定例会議(10回開催) 定例会議を年1~2回、また、必要に応じて臨時会議を開催する。</p> <p>2 ワーキンググループ 関係機関が連携して、虐待及びハイリスク児に対する有効な家庭支援を行うために、事例検討会を行う。</p> <p>(1) 会議の開催(47回開催) 区地域保健課が、関係機関と調整を図り事例検討会を開催する。</p> <p>(2) 構成員 事例に関わる関係機関の実務担当者</p> <p>(3) 検討内容(102件) ア 各関係機関の情報の共有化 イ 問題点のアセスメント ウ 支援目標の確認 エ 今後の援助方針とその方法 オ 各機関の役割分担等</p> <p>3 研修会等(14回開催) 虐待予防に関わる関係者の資質の向上及び一般市民を対象とした、研修会等の実施</p>
19年度見込	19年度も18年度同様に地域の青少年健全育成事業等を推進する。19年1月に開設した札幌市青少年育成委員会のHPを有効活用し、札幌市青少年育成委員会やその活動についての広報を行う。	「青少年を見守る店」について、コンビニ等で同様の取組みが行われていることや、地元商店の減少により新規登録の対象となる店が少なくなっていることから、新規登録より、店と地域の連携に重点をおいて推進する。また、HP等を活用し、子どもや地域住民への周知を図る。	前年度同様の見込み	18年度と同様の内容で実施
備考 (特記事項)			市要保護児童対策地域協議会への再編移行を検討中	

基本目標3：豊かな子ども時代をすごすための社会づくり

担当(局)	子ども未来局	保健福祉局	子ども未来局	子ども未来局																								
担当(部)	児童福祉総合センター	保健福祉局保健福祉部	子ども育成部	児童福祉総合センター																								
基本目標 - 基本施策	3-2	3-3	3-3	3-3																								
事業名	児童虐待予防地域 協力員養成事業	思春期特定相談事業	子どもアシストセンター 相談・指導事業	家庭児童相談員の配置事業																								
事業概要	児童虐待の早期発見・早期対応を図るため、民生委員児童委員、主任児童委員、青少年育成委員等に対して、研修会により児童虐待予防地域協力員の養成を行う。	心の問題に悩んでいる青少年(概ね12～20歳)や家族に対して、電話や面接による相談を行うとともに、青少年に携わる専門職に対して、コンサルテーション(指導・助言)や研修会、講演会を企画する。	思春期の子ども様々な課題に対処するために、電話・面談による相談や街頭における巡回指導などを実施する。	児童問題の相談窓口として各区役所に家庭児童相談員1人を配置するとともに、関係機関・団体との連携を図りながら問題解決にあたる。																								
指標	【児童虐待予防地域協力員数】	【相談件数】 電話相談	【相談・指導件数】 相談	【配置人数】																								
初期値 (計画掲載)	15年度:4,384人	14年度:321件	15年度:2,363件	15年度:10人(各区1人)																								
目標値	21年度:7,000人			21年度:10人(各区1人)																								
16年度実績	4,873人	264件	1,641件	10人(各区1人)																								
17年度実績	6,041人	377件	1,781件	10人(各区1人)																								
18年度実績	6,580人	357件	3,960件	10人(各区1人)																								
18年度実施状況等	<p>協力員登録研修 ①対象:民生・児童委員、主任児童委員、青少年育成委員 実施日:18年11月7日、11月8日 場所:市社会福祉総合センター ②対象:学校職員 実施日:18年5月18日、12月20日 場所:市生涯学習総合センター、市社会福祉総合センター ③対象:保育所・幼稚園・児童会館等職員 実施日:19年3月7日 場所:市社会福祉総合センター ④対象:認可外保育所職員 実施日:18年11月1日 場所:STV北2条ビル会議室</p> <p>現任協力員研修 対象:地域協力員登録者のうち民生・児童委員、主任児童委員、青少年育成委員 実施日:19年2月7日 場所:WEST19 講堂</p>	<p>1.電話相談:357件 2.来所相談:134件 3.コンサルテーション:14件 4.研修会「あたりまえ」の子育てと発達障がい支援」 日時:19年3月9日 対象者:市民、保健・医療・福祉・教育関係職種 参加人数:155名</p> <p>その他の設定指標</p> <table border="1"> <tr> <th>指標</th> <th>【相談件数】 来所相談</th> </tr> <tr> <td>初期値(掲載)</td> <td>14年度:114件</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16実績値</td> <td>77件</td> </tr> <tr> <td>17実績値</td> <td>100件</td> </tr> <tr> <td>18実績値</td> <td>134件</td> </tr> </table>	指標	【相談件数】 来所相談	初期値(掲載)	14年度:114件	目標値		16実績値	77件	17実績値	100件	18実績値	134件	<p>○相談 思春期の子どもやその保護者の身近な相談機関として、電話・メール・面談による相談を実施した。相談内容は、学校生活、不登校、家庭生活、個人的な悩み、不良行為等、多岐に渡っている。 月曜～金曜 9:00～17:00</p> <p>○指導 喫煙や怠学など子どもの問題行動に早期に対応するため、市内中心部の駅・バスターミナル・繁華街・商業施設などを巡回して指導にあたり、子どもが抱えている悩みを少しでも解消できるように、子どもとの対話に努めている。 また、北海道神宮祭・雪まつり等の開催期間中、「札幌市学校教護協会」と連携を図り、合同巡回指導を実施している。 月曜～金曜 午前と午後の1日2回</p> <p>その他の設定指標</p> <table border="1"> <tr> <th>指標</th> <th>【相談・指導件数】 指導</th> </tr> <tr> <td>初期値(掲載)</td> <td>15年度:3,070件</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16実績値</td> <td>3,171件</td> </tr> <tr> <td>17実績値</td> <td>2,970件</td> </tr> <tr> <td>18実績値</td> <td>2,882件</td> </tr> </table>	指標	【相談・指導件数】 指導	初期値(掲載)	15年度:3,070件	目標値		16実績値	3,171件	17実績値	2,970件	18実績値	2,882件	<p>相談件数:1,035件 (18年度より、カウント方法変更) ■家庭児童相談員と児童相談所との懇談会実施(1回) ■施設見学会&lt;札幌少年鑑別所&gt;実施(1回) ■北海道・東北地区家庭児童相談室関係職員研究議会&lt;仙台市&gt;へ家庭児童相談員2名派遣。</p>
指標	【相談件数】 来所相談																											
初期値(掲載)	14年度:114件																											
目標値																												
16実績値	77件																											
17実績値	100件																											
18実績値	134件																											
指標	【相談・指導件数】 指導																											
初期値(掲載)	15年度:3,070件																											
目標値																												
16実績値	3,171件																											
17実績値	2,970件																											
18実績値	2,882件																											
19年度見込	前年度同様の見込み	電話相談 来所相談 コンサルテーション	<table border="1"> <tr> <th>指標</th> <th>【相談・指導件数】 指導</th> </tr> <tr> <td>初期値(掲載)</td> <td>15年度:3,070件</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16実績値</td> <td>3,171件</td> </tr> <tr> <td>17実績値</td> <td>2,970件</td> </tr> <tr> <td>18実績値</td> <td>2,882件</td> </tr> </table>	指標	【相談・指導件数】 指導	初期値(掲載)	15年度:3,070件	目標値		16実績値	3,171件	17実績値	2,970件	18実績値	2,882件													
指標	【相談・指導件数】 指導																											
初期値(掲載)	15年度:3,070件																											
目標値																												
16実績値	3,171件																											
17実績値	2,970件																											
18実績値	2,882件																											
備考 (特記事項)			平成18年度は相談件数が前年度の2倍以上に増加した。これは、平成18年秋以降いじめに関する関心が高まり、その対策の一環として「相談窓口周知ポスター」「相談カード」を作成・配布したことが背景にあると思われる。																									

基本目標3：豊かな子ども時代をすごすための社会づくり

担当(局)	子ども未来局	子ども未来局	子ども未来局	子ども未来局
担当(部)	児童福祉総合センター	児童福祉総合センター	児童福祉総合センター	児童福祉総合センター
基本目標 - 基本施策	3-3	3-3	3-3	3-3
事業名	子ども電話相談事業	メンタルフレンド派遣事業	児童家庭支援センター 運営費補助事業	不登校児等グループ指導事業
事業概要	子ども本人や子育て等に悩む親からの電話相談に対し、適切な助言や他機関の紹介を行う。	社会的不適応を示し、家庭に引きこもりがちな子どもを対象に、「メンタルフレンド」として登録した学生を定期的に派遣し、遊びやふれあいを通じて子どもの社会性や自主性の伸長を援助する。	児童相談所との連携のもとに、児童虐待の未然防止、非行防止、保護者の子育て不安解消など、複雑多様化する児童問題を扱う地域に密着した24時間対応可能な児童福祉施設に対し、運営費を補助する。	不登校相談の児童を対象に、同年代の児童との交流を通じて、自主性や社会性を身につけることを目的としてグループ指導を行う。
指標	【相談件数】	【メンタルフレンド登録者数】	【実施か所数】	【参加児童数】
初期値 (計画掲載)	15年度:1,346件	15年度:27人	15年度:1か所	15年度:7人
目標値		21年度:30人	21年度:2か所	
16年度実績	1,247件	13人	1か所	実人数 8名(延べ数174人)
17年度実績	1,013件	11人	2か所	実人数 9名(延べ数171人)
18年度実績	-----	10人	2か所	実人数13名(延べ数219人)
18年度実施状況等 実施内容	<u>17年度をもって廃止</u>	児童との遊びやふれあいの中で、その児童の自主性や社会性などの伸長を援助することを狙いとしており、児童の兄・姉の世代にあたるボランティア学生を「メンタルフレンド」として概ね週1回派遣している。  ※派遣対象児童:6名、派遣回数延べ89回	興正こども家庭支援センターと羊ヶ丘児童家庭支援センターの運営費を補助している。	お花見 実施日:18年5月10日、場所:円山公園、参加者数:3名
19年度見込		前年度同様と見込まれる。	前年度同様と見込まれる。	前年度同様と見込まれる。
備考 (特記事項)				

基本目標3：豊かな子ども時代をすごすための社会づくり

担当(局)	子ども未来局
担当(部)	児童福祉総合センター
基本目標 - 基本施策	3-3
事業名	里親育成事業
事業概要	家庭で養育できない事情のある子どもを自宅で養育する里親を募集するとともに、里親への研修等を通じて里親制度の普及啓発を図る。
指標	【登録里親数】
初期値 (計画掲載)	15年度:109組
目標値	21年度:130組
16年度実績	115組
17年度実績	121組
18年度実績	120組
18年度実施状況等	<p>実施内容</p> <p>(1)広報さっぽろ6月号:新規里親募集PR ・新規登録里親数:5組</p> <p>(2)研修事業</p> <p>① 6月12日 乳児院見学会:25名参加 10月16日 児童養護施設柏葉荘見学会:27名参加</p> <p>② 6月29日 新規登録里親研修:10名参加</p> <p>③7月10日 第1回里親研修会:33名参加 「親から離れて暮らす子どもの心について」</p> <p>④11月13日 第2回里親研修会:33名参加 「思春期につながる幼児期の子育て」</p> <p>⑤7月~10月専門里親養成教育(恩賜財団母子愛育会委託):2名参加</p> <p>⑥里親養育相互援助事業(札幌市里親会委託):19回/年、延400名参加</p> <p>(3)広報啓発事業 9月11日 里親促進フォーラム 参加者約150名</p>
19年度見込	前年度同様と見込まれる。
備考 (特記事項)	

基本目標4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	観光文化局	観光文化局	環境局	環境局	
担当(部)	文化部	文化部	みどりの推進部	みどりの推進部	
基本目標 - 基本施策	4-1	4-1	4-1	4-1	
事業名	博物館体験事業	自然探求サポート事業	夏休みネイチャークラフトフェスティバル	札幌市豊平川さけ科学館親子・子供採卵実習	
事業概要	化石採取体験学習会、植物観察会、昆虫採集会などを実施する。	博物館計画推進方針の5大プロジェクトにおける科学奨励制度の一環として、博物館の基本テーマに即した児童の研究活動を支援、奨励する。	夏休み期間中の子どもたちを対象に、木工の専門家の指導による公園管理で生じた資源を利用したクラフト活動を豊平公園で実施する。	サケの生態等を学習するために、採卵受精作業や解剖・うろこなどの観察を行う。	
指標	【満足度】	【応募者数】	【参加者数】	【開催回数】	
初期値 (計画掲載)		15年度:20人	15年度:700人	15年度:年8回	
目標値	21年度:85%	21年度:100人	21年度:1,000人	21年度:年8回	
16年度実績	95%	7人	607人	10回開催	
17年度実績	100%	3人	593人	6回開催	
18年度実績	96%	4人	663人	2回開催	
18年度実施状況等	実施内容	<p>「落ち葉のしおりをつくろう!~秋の植物観察会」、「アンモナイト化石のクリーニング」、「地史見学会」の参加者に対して行ったアンケート結果である。</p> <p>その他、春の植物観察会、水草観察会、水生昆虫観察会、昆虫採集会、漂着物から海の環境を読む、冬の観察会を実施した。(これらは野外での実施であったためアンケートはとっていない)。</p>	<p>4件(のべ4人)の応募テーマの中から2件を選考し、夏休みから翌3月にかけて野外調査、室内調査、まとめ、展示制作・公開、口頭での成果発表会を行った。</p> <p>取り組んだテーマ (化石分野) 「化石はどんな地層で見つかるの?骨と土の見分けはつくの?骨のカルシウムはどうなるの?」 参加者:北区、小学3年、1人 サポート研究者:古沢 仁(札幌市博物館活動センター学芸員) (生物分野) 「札幌には何種類ゲンゴロウがいてどんな場所にどのくらいいるのか?。」 参加者:西区、小学3年、1人 サポート研究者:斉藤和範(北海道立旭川高等看護学院非常勤講師)、山崎真実(札幌市博物館活動センター学芸員)</p>	<p>夏休み期間中の子どもたちを対象に、木工の専門家の指導による公園管理で生じた資源を利用したクラフト活動を豊平公園で実施する。</p> <p>・18年7月26日(水)・27日(木) 10:00~15:00 ・入場料100円/人 ・公園の剪定枝などを利用したクラフト ・枝と木の実でアクセサリー ・花とハーブの鉢植えづくりなどのメニューに自由参加(大半が小学生の参加)</p>	<p>サケの人工授精を体験する実習を行なった。実習ではサケのオスとメスの見分け方や、体長・体重測定、受精作業(メスサケのお腹から卵を取り出し、オスの精子をかける)を参加者が分担して行なった。また、うろこから年齢を調べたり、体の仕組みを学んだ。</p> <p>実施日 18年10月~11月 合計2回</p> <p>場所 札幌市豊平川さけ科学館</p> <p>参加対象者 公募による実習(小学4年以上)</p> <p>参加者数 大人 17人 子供 19人</p> <p>その他に、申し込みによる採卵実習を合計11回行った。大人91人、子供252人参加。</p>
	19年度見込	地史見学会、植物観察会、昆虫採集会、漂着物観察会、化石クリーニングなど各種体験学習会を実施する予定。	応募テーマから選考されたテーマについて、児童がサポート研究者とともに自然を探求していく。夏休みから翌3月にかけて野外調査、室内調査、まとめ、展示制作・公開、口頭での成果発表会を行う予定。	19年7月25日(水)・26日(木)に開催	19年10月~11月に、公募による採卵実習を計2回予定している。その他に実習の申込があった場合には随時実習を行う予定である。 また、採卵実習のほかに「サケの受精作業」という体験プログラムを10月~11月の間で6回予定している。
備考 (特記事項)				18年度の開催回数が2回となったのは、採卵実習だけでは応募人数が芳しくなかったために、採卵実習を簡易にした受精体験というプログラムを始めたため。18年度は受精体験を6回開催。参加者数は子ども89人、大人119人。	

基本目標4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	環境局	教育委員会	観光文化局	観光文化局
担当(部)	円山動物園	生涯学習部	文化部	文化部
基本目標 - 基本施策	4-1	4-1	4-1	4-1
事業名	一日飼育係(夏及び冬)	野外体験事業	博物館講座事業	ニッセイ名作劇場
事業概要	公募による市内の小学校4～6年生が獣舎内の清掃やエサ作りなどといった飼育係の仕事を経験する。	夏休み・冬休みの長期休業日に、子どもたちに林間学校等の野外体験の学習機会を提供する。	博物館活動センター主催の各種講座や講演会を実施する。	感性豊かな小学校高学年を対象に劇団四季のミュージカルを観劇する体験機会を設ける。
指標	【参加者数】	【参加者数(累計)】	【受講者の満足度】	【観劇者数】
初期値 (計画掲載)	15年度:夏・88人、冬・48人	15年度:52,600人		15年度:9,007人
目標値	21年度:夏・88人、冬・48人	21年度:62,800人	21年度:85%	21年度:13,500人
16年度実績	夏88人 冬・48人	54,278人	92%	8,983人(参加校108校)
17年度実績	夏88人 冬・42人	56,048人	89%	8,984人(参加校116校)
18年度実績	夏88人 冬・36人	59,859人	96%	9,032人(参加校112校)
18年度実施状況等	<p>夏の一泊飼育係 開催日:7月26日～29日 参加者:各日22名 合計88名(応募者307名) 内容: 9:00～11:55 飼育作業体験 12:50～15:00 ゾウのフンからはがき作り</p> <p>冬の一泊飼育係 開催日:12月26日～28日 定員:各日12名 合計36名 参加者:36名 内容: 9:00～11:30 飼育作業体験 12:40～14:00 動物の飼育等に関する講義</p>	<p>《林間学校》 ○夏季林間学校 ・期間:7月27日～8月3日 ・会場:盤渓小・駒岡小・手稲北小・有明小・豊滝小・青少年山の家・森はともだちの7会場 ・参加者数:1,089人 ・対象:小学校3年生～6年生 ○冬季林間学校 ・期間:19年1月5日～1月11日 ・会場:滝野自然学園・青少年山の家・定山溪自然の村・冬はともだちの4会場 ・参加者数:564人 ・対象:小学校3年生～6年生 《アタックキャンプ》 ○夏季アタックキャンプ ・期間:8月7日～11日 ・会場:藤野野外スポーツ交流施設 フッズ ・参加者数:83人 ・対象:市内の中学生 ○冬季アタックキャンプ ・期間:12月26日～29日 ・場所:定山溪自然の村 ・参加者数:26人 ・対象:夏季アタックキャンプに参加した市内の中学生</p>	<p>講座 夜間講座 「水中映像で見てみよう! 北海道の海の環境」 特別講演会 「21世紀の博物館の役割」 以上の参加者に対して行ったアンケート結果である。 他に、講座として「自然科学絵本読み聞かせ &amp; 学芸員の『小ネタ話』」(展示室内)、「ニュース運動講座「身近な昆虫に親しもう～北海道のファール・木野田さんのお話と昆虫探訪」(共催)をおこなった。</p>	<p>優れた舞台芸術を間近で鑑賞する機会を設けることで、児童の情操教育の一翼を担う。 ■実施日 18年8月29日、30日 ■公演数 4公演(午前・午後各1回×2日間) ■会場 北海道厚生年金会館 ■対象 市内の小学校6年生 ■観劇者数 112校9,032人 〈プログラム〉 「ジョン万次郎の夢」/劇団四季 入場料:無料</p>
19年度見込	夏の一泊飼育係は18年度と同じ内容で実施する。冬の一泊飼育係は、19年度の冬休みが12/26からはじまるため、例年より1日減って3日間(定員36名)の実施予定。	<p>&lt;林間学校&gt; ・18年度同様の内容で実施する。 &lt;アタックキャンプ&gt; ・18年度に引き続き冬季についても試行的に実施する。</p>	博物館活動センター主催(共催含む)各種講座や講演会を実施する予定。	<p>■実施日 19年9月4日、5日 ■公演数 (午前・午後各1回×2日) ■観劇場所 北海道厚生年金会館 ■対象 市内の小学校6年生 ■観劇予定者数 約115校9,000人 〈プログラム〉 「ユタと不思議な仲間たち」/劇団四季 入場料:無料</p>
備考 (特記事項)				

基本目標4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	観光文化局	教育委員会	教育委員会	子ども未来局
担当(部)	文化部	生涯学習部	中央図書館	子ども育成部
基本目標 - 基本施策	4-1	4-1	4-1	4-1
事業名	Kitaraファーストコンサート	ジュニア・ウィークエンドセミナー	図書館における子ども向け行事	地域ふれあい体験事業
事業概要	札幌市内の全小学6年生を対象として、札幌コンサートホールKitaraで、オーケストラ演奏を鑑賞・体験する事業を行う。	学校週5日制が完全実施されたことに伴い、子どもたちが充実した週末を過ごすことができる機会の提供を目的として、各種体験講座を実施する。	図書館本来の奉仕活動の一環として、文化活動の機会と場の提供を図るため、各種行事を各館独自の計画に基づいて実施する。特に、子ども向け行事は、映画会、工作会、人形劇など子どもに親しまれる内容とし、図書館に対する興味と関心を喚起することを目的として実施する。	地域の人々が習得している昔遊びや工芸、染め物などの伝承文化、体験談や暮らしの知恵など豊かな経験を広く子どもたちに継承し、多様な価値観を身に付けながら主体的に行動できる青少年の育成を図る。
指標	【鑑賞対象者】	【受講者数】	【参加者数】	【参加者数】
初期値 (計画掲載)	16年度：小学校6年生	15年度：845人	15年度：5,831人	15年度：1,560人
目標値	21年度：小学校6年生	21年度：1,000人	21年度：6,800人	21年度：1,560人
16年度実績	15,414人(参加校194校)	943人	6,500人	1,000人
17年度実績	15,930人(参加校203校)	582人	5,405人	1,835人
18年度実績	17,744人(参加校214校)	1,581人	542人(中央図書館)	1,400人程度
18年度実施状況等	<b>実施内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 実施日 H18/10/23～10/25、12/14～12/15</li> <li>■ 実施回数 10回(午前・午後各1回×5)</li> <li>■ プログラム(楽器紹介を含めて約1時間程度) <ul style="list-style-type: none"> <li>1 フーガ短調BWV578「小フーガ」(オルガン独奏)</li> <li>2 行進曲「威風堂々」第1番</li> <li>3 歌劇「カヴェレリア・ルスティカーナ」より間奏曲</li> <li>4 交響曲第5番ハ短調「運命」より第1楽章</li> <li>5 管弦楽のためのラプソディより</li> <li>6 スラブ舞曲第10番</li> <li>7 映画「スターウォーズ」より「メインタイトル」</li> </ul> </li> <li>■ 演奏 1:キタラ専属オルガニスト独奏、2～7:札幌交響楽団</li> <li>■ 入場者数等 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 参加校数:214校(対象校数227校、参加率94.2%)</li> <li>○ 参加児童数:16,753人</li> <li>○ 引率者数:991人</li> <li>○ 合計入場者数:17,744人</li> </ul> </li> </ul>	<p>学ぶこと本来の面白さを発見してもらう講座(Aコース)と社会教育施設の機能を活用し特定分野の入門基礎を学べる講座(Bコース)を実施。</p> <p>【Aコース】 ・ものづくり、演劇、車椅子バスケット等の講座を実施(10回) 参加者数:235人</p> <p>【Bコース】 ・札幌の歴史探検「歴史新聞をつくらう」(6回) 参加者数:33人 ・親子パソコン教室(10回) 参加者数:263人 ・親子クッキング教室(10回) 参加者数:177人 ・科学教室・工作教室(40回) 参加者数:873人</p> <p>科学教室・工作教室は、文部科学省の委託事業「地域子ども教室」と協力のかたちで実施した。</p>	<p>中央図書館及び各地区図書館(9館)において、ボランティア団体により、子ども映画会、工作会、人形劇、お楽しみ会(クリスマス会、かるた大会ほか)など子ども向け行事を、夏休み、読書週間などにあわせてそれぞれ実施した。</p>	<p>主に小学校1年生から高校3年生と、地域の大人たちを対象として、各区3回単位子ども会が独自で事業を実施した。</p>
19年度見込	18年度と同程度を予定。	Aコース、Bコース(歴史新聞をつくらう、親子パソコン教室、親子クッキング教室、科学教室)を実施する。18年度で「地域子ども教室」が終了したため、工作教室は実施しない。 また、19年度から機構改革により(総)行政部に移った文化資料室の実施講座は、教育委員会に協力する形態で、引き続き「ジュニア・ウィークエンドセミナー」の名称で事業を行う。	実施を継続する。	19年度も、18年度と同様に実施する。
備考 (特記事項)				



基本目標4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	環境局	建設局	水道局	経済局
担当(部)	円山動物園	建設局管理部	水道局総務部	産業振興部
基本目標 - 基本施策	4-1	4-1	4-1	4-1
事業名	親子夜の動物ウォッチング	下水道科学館フェスタ	夏休み親子水道施設見学会	親子ものづくり教室
事業概要	夏休み期間中の2日間、公募による市内の小中学生とその親あわせて240人(一日あたり120人)が、飼育係の案内により普段見ることのできない動物の夜の生態についての学習の場として実施する。	下水道科学館において、小学生以下の子どもを主な対象とした下水道に関するイベントを実施し、楽しみながら下水道への理解を深める。	夏休み期間中に、小学3～6年生の児童及びその保護者を対象として、ダム、浄水場などの水道施設の見学を体験型の学習として実施し、水資源の有限性、水の貴重さ、水資源開発の重要性等を認識するとともに、水道事業への理解を深める。	技能労働の現場における人材確保・育成、熟練技能の継承を目的として、小学校等を会場に、技能の大切さ、素晴らしさの啓蒙・普及につながる講座を実施する。
指標	【参加者数】	【事業実施回数】	【参加者数】	【実施回数・参加者数】
初期値 (計画掲載)	15年度:240人	15年度:年1回	15年度:184人	15年度:3回・90人
目標値		21年度:年1回	21年度:240人	21年度:4回・120人
16年度実績	258人	年1回	198人	4回・101人
17年度実績	207人	年1回	198人	4回・114人
18年度実績	102人	年1回	168人	4回・136人
18年度実施状況等	親子夜の動物ウォッチング 開催日:18年9月24日(日) 参加者:102名	「下水道の日」(9月10日)に合わせ、下水道広報イベントとして9年度から実施している。 18年度も小学生や家族連れを主たる参加対象として、楽しみながら下水道について学ぶことができる企画内容で開催した。 ア 実施期間 18年9月2日(土)、3日(日)<2日間> イ 会場 札幌市下水道科学館 ウ 入場者数 9,320人	8月2日～4日実施 応募総数 184名(豊平峡ダム定員160名 定山溪ダム定員80名) 参加者数 168名(定員240名) 「水ができるまで」をテーマに、水ができるまでの道のりをバスで見学した。	熟練技能の大切さ、素晴らしさの啓蒙・普及につながる講座として、「親子ものづくり教室」を実施した。  実施日(場所): ①18年9月30日(札幌市産業振興センター) ②18年11月11日(経専調理製菓専門学校) ③19年1月27日(札幌市産業振興センター) ④19年2月24日(札幌市産業振興センター) 参加対象者:市内の小中学校に通う3～6年生とその親 参加者数:延べ136名
19年度見込	実施予定なし	19年度も、子供や家族連れの来場者が下水道に親しめる企画内容で、引き続き開催する予定。	8月1日～3日実施 対象 小学生とその親 定員240名 参加 155名 見学コース 定山溪ダム、豊平峡ダム、水道記念館、藻岩浄水場	事業目的、必要性、効果等を検証のうえ、廃止を含めた事業の見直しを検討
備考 (特記事項)		フェスタ開催の2日間に限らず、年間を通じて施設への来館を促すよう、イベントの実施や広報活動の充実を図り、下水道に関する知識に接してもらえる機会を増やしていきたい。		

基本目標4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	経済局 産業振興部	経済局 農務部	子ども未来局 子ども育成部	観光文化局 スポーツ部
基本目標 - 基本施策	4-1	4-1	4-1	4-1
事業名	子ども映像制作ワークショップ	サッポロさとらんど農業体験学習	さっぽろ少年6団交流事業 友遊KID'Sランド	国際親善ジュニアスポーツ 姉妹都市交流
事業概要	市内中学生(もしくは同年齢)を対象に、短編映画の企画、演出、演技、撮影までを子供たち自らが体験する機会を提供する。	将来を担う市内小学生を対象に、農業体験交流施設(サッポロさとらんど)を利用して、農業体験学習を通じ「食と農の関わり」への知識や理解を深めると共に、農業の大切さと魅力、農業・農村の果たしている役割について学びながら、「食育」の重要性を認識してもらう。	市内で活動する少年6団体(子ども会、ボーイスカウト、ガールスカウト、スポーツ少年団、鉄道少年団、海洋少年団)の相互交流や加入促進を目的に、一般の子どもたちにも広く参加を呼びかけ、団体の日頃の活動の発表や各種体験コーナーなどを実施する。	各姉妹都市の提携記念年に市内中学生で編成した選手団を派遣する。また、提携記念年に該当しない年には全ての姉妹都市を札幌に招請し、姉妹都市間の親善を図る。なお、ノビシビルスク市への派遣については、提携記念年を2年繰り上げて実施する。
指標	【参加人数】	【参加人数】	【来場者数】	【実施回数】
初期値 (計画掲載)	18年度:15人	17年度:8,000人	15年度:3,800人	15年度:年1回
目標値	21年度:30人	21年度:50,000人	21年度:4,500人	21年度:年1回
16年度実績		【17年度新規事業】	3,950人	1回
17年度実績	【18年度新規事業】	9,230人	5,000人程度	1回
18年度実績	111人	77,483人	4,500人程度	1回
18年度実施状況等	<p>札幌在住の映像制作者であり、札幌国際短編映画祭のスタッフでもある島田英二監督が中心となり、札幌市内の「栄西小学校」(標準的な規模)と「東米里小学校」(小規模校)の2校でワークショップを実施した。</p> <p>○タイトル 小学生のショートフィルム・ワークショップ 「未来の映画監督になろう！」</p> <p>○実施日 ・先生向けワークショップ 栄西小:8/17 東米里小:8/24 ・生徒向けワークショップ 栄西小:7/21、8/23、9/5、9/28、10/12、11/16 東米里小:8/28、8/31、9/1、9/4</p> <p>○内容 1)基本的な映像言語の仕組み(モニター・ジュ理論) 2)映作文(映像を使った文章づくり) 3)映像制作の手順 4)現場での役割と実地演習 5)編集 6)鑑賞・批評</p> <p>○参加者 先生:15名/生徒:96名</p>	<p>収穫体験 アスパラ、エダマメ、ダイコン、カボチャ、トウキビ、サツマイモ、タマネギなど 収穫加工体験 ジャガイモ3日間、大豆4日間コースなど その他市民農園、手作り体験など</p> <p>親子18,981組参加</p>	<p>9月30日(土)に札幌市スポーツ交流施設「つどーむ」にて実施。 各少年団体が、それぞれの特色を生かしたコーナーの設置やステージでの発表で日頃の活動成果を発表し団体PRを行った。 また、この事業を通じて少年団体相互の交流を行った。</p>	<p>8月15日から21日の1週間、ポートランド市とミュンヘン市から女子バスケットボール選手団を迎え、札幌市内中学生から選手を選抜して構成した札幌A、札幌Bチームの計4チームでの交流試合を実施。 試合のほか、文化交流やホストファミリーを募ってのホームステイでの交流も実施。</p>
19年度見込	今年度も同方針を継続し、札幌国際短編映画祭の一環としてワークショップを開催する。	18年度とほぼ同様の企画を実施する。		札幌市内中学生から選手を選抜し、男子バスケットボールチームを構成し、姉妹都市提携35周年を迎えるミュンヘン市へ選手団を派遣する。
備考 (特記事項)		大志塾運営にもさとらんどが協力している。		

基本目標 4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	観光文化局	子ども未来局	環境局	環境局
担当(部)	スポーツ部	子ども育成部	環境事業部	環境都市推進部
基本目標 - 基本施策	4-1	4-1	4-1	4-1
事業名	札幌カップ国際アイス ホッケー競技大会	国際ユースネット21補助事業	環境プラザにおける 環境学習の機会の提供	新エネルギー教室
事業概要	青少年の健全育成と国際交流などを目的として、札幌市の提唱により、北方都市会議参加都市、姉妹都市に参加を呼びかけ、1989年8月に第1回大会を札幌市において開催し、以後、隔年で開催している。	世界各国の青少年を招き、ホームステイ、社会見学や文化交流などの様々なプログラムを行うことにより、道内の青少年との交流を図る。	環境教育の拠点施設である環境プラザから、環境学習の機会等を提供する。 環境プラザを通じて、環境問題を正しく理解し、かつ行動を喚起することにより、環境に配慮した行動が普及・定着することを目標とする。	次世代を担う小学生を対象に、地球温暖化問題等や各新エネルギーについて、わかりやすく解説した「新エネルギー勉強会」と太陽光発電を実際に体験する「ミニソーラーカー工作教室」を組み合わせた事業を実施する。
指標		【参加者数】		
初期値 (計画掲載)		15年度:0人		
目標値		21年度:40人		
16年度実績	1回	24人		
17年度実績		-----		【18年度新規事業】
18年度実績	1回	-----		6校
18年度実施状況等	<p>月寒体育館を会場に7月28日から30日の3日間、エドモントン市(カナダ)、ノボシビルスク市(ロシア)、ソウル市(韓国)と札幌A、札幌Bの計5チームによるアイスホッケー国際大会を開催。</p> <p>選手は、1991.4.2～1994.4.1生れの者</p>		<p>環境プラザの役割や展示物などの説明を行うとともに、環境問題を正しく理解し環境に配慮した行動を率先して実行へ移すための普及啓発を行っている。</p> <p>小中学校総合学習見学:27件</p>	<p>市内小学校4校にて、北海道経済産業局との共同開催により新エネルギー教室を実施した。</p> <p>また、市内小学校2校にて、新エネルギー出前講座を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新エネルギー教室実施校                      栄西小(4年生87名)                      札幌緑小(5年生105名)                      新発寒小(6年生49名)                      北小(4年生62名)</li> <li>・新エネルギー出前講座                      西岡北小(6年生70名)                      屯田北小(5年生100名)</li> </ul>
19年度見込	隔年開催のため実施予定無し			昨年度に引き続き、新エネルギー出前講座を行う予定。
備考 (特記事項)			H18年度より指定管理制度で運用 (指定管理者:(財)札幌市青少年女性活動協会)	

基本目標4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	教育委員会	観光文化局	観光文化局	消防局	
担当(部)	生涯学習部	スポーツ部	文化部	予防部	
基本目標 - 基本施策	4-1	4-1	4-1	4-1	
事業名	司法教育の推進	ファイターズ屋内練習場 市民開放事業	芸術体験キッズプロジェクト事業	「教えて！ファイヤーマン」事業	
事業概要	司法制度への関心を高め、司法教育を充実させるため、学校教育等における司法に関する学習機会の提供を図る。	北海道日本ハムファイターズの屋内練習場の少年野球を中心とした市民開放を促進するため、施設を借上げて運営・管理を行うNPO法人に対して補助を行う。	舞台芸術の普及振興と子どもたちの創造性を高めるため、教育文化会館において専門家によるアート講座・ワークショップを開催し、大人とともに舞台芸術を学び、その成果を発表したり、芸術の森の美術館、クラフト工房等の各施設の特性を活かして、子供たちが美術、工芸、音楽などのさまざまな芸術を楽しみながら体感する事業を行う。	小学4年生の児童を対象として、第一線で働いている消防職員が小学校の教壇に立ち、消防に関する知識を教えるほか、煙からの避難や119番通報、消防隊が災害現場で使用する資機材に触れてもらう等の体験を通じて、消防の仕事に対する興味・関心を高め、その役割を理解してもらうと共に「命の尊さ」を伝えることを目的とする。	
指標	初期値 (計画掲載)				
	目標値				
16年度実績					
17年度実績					
18年度実績					
18年度実施状況等	実施内容	資料館の改修工事を実施し、刑事法廷展示室及び法と司法の展示室を設置した。 11月3日に全館リニューアルオープンし、展示室の一般公開を開始したほか、施設機能を活用し次の事業を実施した。 ・高校生を対象とした模擬裁判 ・学校の社会見学対応 ・法教育に関する学習メニューの検討及び作成	NPO法人北海道野球協議会が北海道日本ハムファイターズから借り上げたもののうち、少年野球対象に貸し出した場合の借上げ料相当額を同法人に対し補助した。  利用日数：110日(小中学生利用分) 利用区分数：160区分 (小中学生利用分)	子どものための「オペレッタ」ワークショップと、成果発表公演を実施した。また、アウトリーチ活動としてお出かけコンサートも実施した。 〈ワークショップ〉 ■場所:教育文化会館 ■会期:平成18年9月2日～平成19年2月10日 ■実施回数:26回 ■対象:小学校4年生以上～中学生 ■受講者数:64人 〈発表公演〉 ■場所:教育文化会館 ■期日:平成19年1月14日 2グループに分けて公演 月組公演:入場者数305人 星組公演:入場者数270人 入場料:300円(中学生以下無料整理券配布) 〈お出かけコンサート〉 ■場所・期日: 平成19年1月14日札幌市長生園 平成19年2月10日厚別北小ミニ児童会館	・職員の体験談の他、スライド画像を使用して「消防の仕事」を分かりやすく説明。 ・119番通報の模擬体験、煙の中からの避難体験、水消火器による消火体験。 ・災害現場で使用する資機材等の展示、着装体験。  市立小学校203校で実施
	19年度見込	18年度事業の継続及びレベルアップを図るとともに、親子法律講座など法に慣れ親しんでもらうための事業を実施する予定	過去実績を勘案し、補助上限金額を減額し実施する。	18年度に引き続き、ワークショップの開催と発表公演、お出かけコンサートなどを実施。	・すべての小学校に設置されているAED(自動体外式除細動器)の取扱い方法について、授業内容に組み込む。  市立小学校203校で実施予定
備考 (特記事項)	法及び司法に関する学習機会の提供等については、指定管理者の管理業務に含めている。				

基本目標4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	保健福祉局	子ども未来局	子ども未来局	子ども未来局
担当(部)	保健福祉局総務部	子ども育成部	子ども育成部	子ども育成部
基本目標 - 基本施策	4-2	4-2 (再掲 3-1)	4-2	4-2
事業名	ボランティア体験事業	子ども議会	さっぽろ夢大陸 「大志塾(仮称)」事業	札幌市少年リーダー養成研修
事業概要	ボランティア活動の振興を図るため、札幌市社会福祉協議会が実施するボランティア体験事業に対して、補助を行う。	未来を担う子どもたちに札幌のまちづくりについて考えてもらい、市政への参加と理解を促進する機会とする。子どもが主体となる議会とし、議会を通じて子どもの権利条約の意見表明権などを体现する場として、権利条約について市民への啓発、議論の喚起を促す。	サッポロさとらんど内の未整備地を会場に、子どもたちの自主性や創造性を育むため、子どもたち自らが希望する活動内容の立案や準備を行い、グループで協力しながら継続的に取り組む参加型の体験活動事業を展開する。	青少年の健全育成を推進するうえで、地域において大きな役割を果たす子ども会活動を円滑に進めるため、子ども会活動の中心役としてふさわしい知識と技能を持った少年リーダーを育成する。
指標	【参加者数】	【参加者数】	【対象者数】	【研修受講者数】
初期値 (計画掲載)	15年度:523人	15年度:65人	15年度:48人	15年度:1,318人
目標値		21年度:70人	21年度:200人	21年度:1,500人
16年度実績	413人	69人	57名	1,250人
17年度実績	490人	66人	137人	1,350人
18年度実績	301人	55人	186人	1,203人
18年度実施状況等	<p>様々なボランティア活動をメニューから選んで体験できるように、市民がボランティア活動に取り組む機会の充実を図った。</p> <p>【対象】小学生以上の市民 【期間】通年 【受入先】196施設・団体 【参加者】301人</p>	<p>市内の小学5年生から高校2年生の子ども議員が、札幌市議会と同じ6つの常任委員会(総務、財政市民、文教、厚生、建設、経済)に分かれて、札幌市に対しての提案を行い、市長をはじめ、副市長・関係局長等が答弁をした。</p> <p>・18年度は、高校生が新たに子ども議員として参加したほか、子どもたちの活動をサポートする大学生等11人もスタッフとして参加した。</p> <p>○提案のための委員会8回 ・実施日 18年9月～12月</p> <p>○本会議 ・実施日 19年1月11日(木) ・場所 札幌市議会議場 ・主な提案 「円山動物園について」 「税金、まちづくりについて」 「学校の先生、いじめ、児童会館について」 「心のバリアフリーについて」 「除雪パートナーシップの普及について」 「札幌市の農業について」</p>	<p>子どもたちの自主性、創造性、協調性を育むために、子どもたちが活動の計画や準備を行い、互いに相談・協力しながら継続的な体験活動を行う参加型事業。</p> <p>活動期間:夏期(5月から9月までの土曜日10回実施)、冬期(1月から2月までの土曜日4回実施) 対象:市内の小学生 活動場所:サッポロさとらんどの一部(整備計画のない休遊地)・さとらんど交流館など</p> <p>【夏期】 ※子ども村づくり活動、キャンプ等 第1回:オリエンテーション、今後の活動について意見を出す 第2回:田植え、村づくり活動 第3回～6回:村づくり活動 第7回:村づくり活動、子ども村祭、キャンプ 第8回～9回:村づくり活動 第10回:収穫祭、修了式</p> <p>【冬期】 ※雪国ならではの遊びや文化に関連する活動 第1回:オリエンテーション、今後の活動について意見を出す 第2回～3回:雪像づくり(雪まつりさとらんど会場) 第4回:雪像づくり、修了式(雪まつりさとらんど会場)</p>	<p>高校生以上を対象とし、ジュニアリーダー上級研修を7回実施。その内1回は全市合同研修を実施した。また、各区でも5回から6回、ジュニアリーダー養成・初級・中級研修を行った。(全区計53回)。</p>
19年度見込		19年度も、18年度と同様に実施する。	子ども村づくり活動を継続して実施する	19年度は、下記の研修を予定している。 本部上級研修:計7回 各区初級・中級研修:計53回
備考 (特記事項)				

基本目標4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	子ども未来局	子ども未来局	交通局	経済局
担当(部)	子ども育成部	子ども育成部	事業管理部	産業振興部
基本目標 - 基本施策	4-2	4-2	4-2	4-2 (再掲 4-1)
事業名	少年国際交流事業	子どもワンダーランド事業	サタデー・テーリング	子ども映像制作ワークショップ
事業概要	子どもたちの自主性を育み国際的視野を広げるため、ノボニルスク市(ロシア)及びシンガポール共和国との相互交流事業において、参加者が意見や課題を持って取り組むプログラムを実施する。	留学生らや外国出身の子どもたちとの交流を通じて、互いの文化・習慣・考え方の違いを体験することにより、国際感覚を身に付け、国際親善の大切さを学ぶ機会を提供する「子どもワンダーランド事業」を17年度新たに実施する。	子どもたちが自主的に「ふるさと札幌」を学習して歩く手助けとなるとともに、公共交通機関の便利さや快適さを学んでもらい、併せて交通マナーを身につけてもらうことを目的に、小学校4～6年生を主な対象とした市内34か所のポイントを回るスタンプラリーを実施する。	市内中学生(もしくは同年齢)を対象に、短編映画の企画、演出、演技、撮影までを子供たち自らが体験する機会を提供する。
指標	【参加者数】	【参加者数】		【参加人数】
初期値 (計画掲載)	14年度:64人	17年度:300人		18年度:15人
目標値	21年度:80人	21年度:300人		21年度:30人
16年度実績	10人	【17年度新規事業】		
17年度実績	48人	237人		【18年度新規事業】
18年度実績	74人	5,429人		18年度:111人
18年度実施状況等	<p><b>実施内容</b></p> <p>ノボニルスク少年交流事業: 18年7月31日より8月7日の日程で、ノボニルスク市へ少年少女10名の派遣を行った。派遣にあたっては、交流事業の効果を一層高めるため、事前研修を行い、ノボニルスク市の概要などについて学習した。また、団員は個人ごとに課題を決め、現地で調査を行った。 事業終了後に一般市民を対象として、シンガポール少年少女交流事業と合同で事業報告会を行った。</p> <p>シンガポール少年少女交流事業: 18年5月27日より6月10日の日程で、シンガポール共和国から中学3年の少年少女14名を受け入れた。受入にあたっては、札幌団員の家庭にホームステイし、中学校体験入学や施設見学等の交流プログラムを実施した。 また、事業終了後に一般市民を対象として、ノボニルスク少年少女交流事業と合同で事業報告会を行った。</p>	<p>外国出身の子どもたちや留学生との交流を通じて、互いの文化・習慣・考え方の違いを体験し、国際感覚の育成と、国際親善の大切さを学ぶ機会を提供する事業。18年度は各区1回計10回実施。 地域のイベントと共催して実施することにより、前年度より参加者数が飛躍的に増加した。 対象:市内の小中学生 第1回:西区(はちけん地区センター) 第2回:中央区(中央区子連 中央区子どもまつり) 第3回:厚別区(厚別区子連 厚別区子どもまつり) 第4回:豊平区(豊平Iブロック児童会館 とよひらっこフェスティバル) 第5回:北区(北海道大学学生サークル、鉄西夏祭り) 第6回:南区(厚別区子連 子どもサミットと同時開催) 第7回:白石区(白石区ふるさと会) 第8回:東区(東区子連 東区ふれあい子どもまつり) 第9回:手稲区(手稲区子連 子ども居場所づくり事業) 第10回:清田区(あしりべつ郷土館運営委員会 あしりべつ郷土館まつり)</p>	<p>前期(4～9月)及び後期(10～3月)の2回開催</p> <p>【前期】 スタッフ対象施設 34カ所 参加者 31,105名</p> <p>【後期】 スタッフ対象施設 34カ所 後期参加者 19,070名</p>	<p>札幌在住の映像制作者であり、札幌国際短編映画祭のスタッフでもある島田英二監督が中心となり、札幌市内の「栄西小学校」(標準的な規模)と「東米里小学校」(小規模校)の2校でワークショップを実施した。</p> <p>○タイトル 小学生のショートフィルム・ワークショップ 「未来の映画監督になろう！」</p> <p>○実施日 ・先生向けワークショップ 栄西小:8/17 東米里小:8/24 ・生徒向けワークショップ 栄西小:7/21、8/23、9/5、9/28、10/12、11/16 東米里小:8/28、8/31、9/1、9/4</p> <p>○内容 1) 基本的な映像言語の仕組み(モニター・ジュ理論) 2) 映作文(映像を使った文章づくり) 3) 映像制作の手順 4) 現場での役割と実地演習 5) 編集 6) 鑑賞・批評</p>
19年度見込	ノボニルスク: 中学1年～高校3年までの少年少女10名をノボニルスク市から受入予定。 シンガポール: 中学2年の少年少女14名をシンガポール共和国へ派遣予定。	19年度は各区1～2回計15回実施予定。助成事業として実施することにより、地域で主体的に事業を展開していき、地域のアイデアを生かした、身近で継続的な国際交流の取組みの拡大を図る。	【前期】 実施期間(4～9月) スタッフ対象施設 34カ所 参加予定人数 28,000名 【後期】 実施期間(10～3月) スタッフ対象施設 34カ所 参加予定人数 22,000名	今年度も同方針を継続し、札幌国際短編映画祭の一環としてワークショップを開催する。
備考 (特記事項)	両事業とも隔年で派遣・受入を実施。	19年度より助成事業として実施		

基本目標 4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	保健福祉局	子ども未来局	保健福祉局																																																																														
担当(部)	健康衛生部	子ども育成部	健康衛生部																																																																														
基本目標 - 基本施策	4-3	4-3 (再掲 3-3)	4-3																																																																														
事業名	思春期ヘルスケア事業	子どもアシストセンター 相談・指導事業	若者の性に関する 知識の普及啓発																																																																														
事業概要	小・中・高校生を対象として、自らの健康問題を主体的に解決する能力を育てるとともに、健全な父性・母性の育成を図るために、保健センターの専門職が学校に出向き「性等に関する健康教育」を行うほか、保健センターにおいて乳幼児とふれあう「体験学習」を行う。	思春期の子どもの様々な課題に対処するために、電話・面談による相談や街頭における巡回指導などを実施する。	望まぬ妊娠や性感染症の予防を一層推進するため、産婦人科等の関係機関との連携により、人工妊娠中絶経験者・性感染症罹患者に対する予防知識の普及啓発を図るとともに、相談体制を充実する。																																																																														
指標	【ふれあい体験学習事業の実施校】	【相談・指導件数】 相談	【10代の人工妊娠中絶率】 (人口千対)																																																																														
初期値 (計画掲載)	13年度: 1校	15年度: 2,363件	12年度: 24.0																																																																														
目標値	24年度: 増やす		24年度: なくす																																																																														
16年度実績	5校	1,641件	(15年度: 19.7)																																																																														
17年度実績	2校	1,781件	(16年度: 17.3)																																																																														
18年度実績	1校	3,960件	(17年度: 15.2)																																																																														
18年度実施状況等	<p>1 授業支援事業 保健センターの専門職が、授業の一環として生命誕生等についての健康教育を実施 実施校数: 66校 実施回数: 97回 実施人数: 15,732人</p> <p>2 ふれあい体験学習事業 保健センターにおける各種母子保健事業の機会を活用し、乳幼児とのふれあいや妊婦体験等を含めた体験学習を実施 実施校数: 1校 実施回数: 2回 実施人数: 24人</p>	<p>○相談 思春期の子どもやその保護者の身近な相談機関として、電話・メール・面談による相談を実施した。相談内容は、学校生活、不登校、家庭生活、個人的な悩み、不良行為等、多岐に渡っている。 月曜～金曜 9:00～17:00</p> <p>○指導 喫煙や怠学など子どもの問題行動に早期に対応するため、市内中心部の駅・バスターミナル・繁華街・商業施設などを巡回して指導にあたり、子どもが抱えている悩みを少しでも解消できるよう、子どもとの対話に努めている。 また、北海道神宮祭・雪まつり等の開催期間中、「札幌市学校教護協会」と連携を図り、合同巡回指導を実施している。 月曜～金曜 午前と午後の1日2回</p>	<p>1 人工妊娠中絶・性感染症の予防に関する保健指導の実施 医療機関による指導・相談 7071件 保健センターによる相談 125件</p> <p>2 普及啓発 大学・専門学校の生徒及び児童・生徒の保護者等への普及啓発 36回 2,791人</p> <p>3 職員研修の実施 「若者の性に関する研修～男子の性教育」 18年5月25日開催 参加者 41名</p>																																																																														
	<p>10代の人工妊娠中絶率 (人口千対)</p> <table border="1"> <tr><td>指標</td><td>10代の人工妊娠中絶率 (人口千対)</td></tr> <tr><td>初期値(掲載)</td><td>12年度: 24.0</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>24年度: なくす</td></tr> <tr><td>16実績値</td><td>(15年度: 19.7)</td></tr> <tr><td>17実績値</td><td>(16年度: 17.3)</td></tr> <tr><td>18実績値</td><td>(17年度: 15.2)</td></tr> </table> <p>未成年者の喫煙率 (15～19歳)</p> <table border="1"> <tr><td>指標</td><td>未成年者の喫煙率 (15～19歳)</td></tr> <tr><td>初期値(掲載)</td><td>12年度: 15.8%</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>24年度: なくす</td></tr> <tr><td>18実績値</td><td>5.5%</td></tr> </table> <p>未成年者の飲酒率 (15～19歳)</p> <table border="1"> <tr><td>指標</td><td>未成年者の飲酒率 (15～19歳)</td></tr> <tr><td>初期値(掲載)</td><td>12年度: 38.9%</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>24年度: なくす</td></tr> <tr><td>18実績値</td><td>22.0%</td></tr> </table> <p>薬物への正しい知識を持つ人 (16～19歳)</p> <table border="1"> <tr><td>指標</td><td>薬物への正しい知識を持つ人 (16～19歳)</td></tr> <tr><td>初期値(掲載)</td><td>12年度: 22.3%</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>24年度: 100%</td></tr> <tr><td>18実績値</td><td>18.4%</td></tr> </table> <p>避妊法を正確に知っている人 (16～19歳)</p> <table border="1"> <tr><td>指標</td><td>避妊法を正確に知っている人 (16～19歳)</td></tr> <tr><td>初期値(掲載)</td><td>12年度: 28.0%</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>24年度: 100%</td></tr> <tr><td>18実績値</td><td>42.2%</td></tr> </table> <p>正しい性感染症の知識を持つ人 (16～19歳)</p> <table border="1"> <tr><td>指標</td><td>正しい性感染症の知識を持つ人 (16～19歳)</td></tr> <tr><td>初期値(掲載)</td><td>12年度: 4.6%</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>24年度: 100%</td></tr> <tr><td>18実績値</td><td>6.0%</td></tr> </table>	指標	10代の人工妊娠中絶率 (人口千対)	初期値(掲載)	12年度: 24.0	目標値	24年度: なくす	16実績値	(15年度: 19.7)	17実績値	(16年度: 17.3)	18実績値	(17年度: 15.2)	指標	未成年者の喫煙率 (15～19歳)	初期値(掲載)	12年度: 15.8%	目標値	24年度: なくす	18実績値	5.5%	指標	未成年者の飲酒率 (15～19歳)	初期値(掲載)	12年度: 38.9%	目標値	24年度: なくす	18実績値	22.0%	指標	薬物への正しい知識を持つ人 (16～19歳)	初期値(掲載)	12年度: 22.3%	目標値	24年度: 100%	18実績値	18.4%	指標	避妊法を正確に知っている人 (16～19歳)	初期値(掲載)	12年度: 28.0%	目標値	24年度: 100%	18実績値	42.2%	指標	正しい性感染症の知識を持つ人 (16～19歳)	初期値(掲載)	12年度: 4.6%	目標値	24年度: 100%	18実績値	6.0%	<p>【10代の人工妊娠中絶率】 指導</p> <table border="1"> <tr><td>指標</td><td>【相談・指導件数】 指導</td></tr> <tr><td>初期値(掲載)</td><td>15年度: 3,070件</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>16実績値</td><td>3,171件</td></tr> <tr><td>17実績値</td><td>2,970件</td></tr> <tr><td>18実績値</td><td>2,882件</td></tr> </table> <p>【避妊法を正確に知っている人】 (16～19歳)</p> <table border="1"> <tr><td>指標</td><td>【避妊法を正確に知っている人】 (16～19歳)</td></tr> <tr><td>初期値(掲載)</td><td>12年度: 28.0%</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>24年度: 100%</td></tr> <tr><td>18実績値</td><td>42.2%</td></tr> </table> <p>【正しい性感染症の知識を持つ人】 (16～19歳)</p> <table border="1"> <tr><td>指標</td><td>【正しい性感染症の知識を持つ人】 (16～19歳)</td></tr> <tr><td>初期値(掲載)</td><td>12年度: 4.6%</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>24年度: 100%</td></tr> <tr><td>18実績値</td><td>6.0%</td></tr> </table>	指標	【相談・指導件数】 指導	初期値(掲載)	15年度: 3,070件	目標値		16実績値	3,171件	17実績値	2,970件	18実績値	2,882件	指標	【避妊法を正確に知っている人】 (16～19歳)	初期値(掲載)	12年度: 28.0%	目標値	24年度: 100%	18実績値	42.2%	指標	【正しい性感染症の知識を持つ人】 (16～19歳)	初期値(掲載)	12年度: 4.6%	目標値	24年度: 100%	18実績値
指標	10代の人工妊娠中絶率 (人口千対)																																																																																
初期値(掲載)	12年度: 24.0																																																																																
目標値	24年度: なくす																																																																																
16実績値	(15年度: 19.7)																																																																																
17実績値	(16年度: 17.3)																																																																																
18実績値	(17年度: 15.2)																																																																																
指標	未成年者の喫煙率 (15～19歳)																																																																																
初期値(掲載)	12年度: 15.8%																																																																																
目標値	24年度: なくす																																																																																
18実績値	5.5%																																																																																
指標	未成年者の飲酒率 (15～19歳)																																																																																
初期値(掲載)	12年度: 38.9%																																																																																
目標値	24年度: なくす																																																																																
18実績値	22.0%																																																																																
指標	薬物への正しい知識を持つ人 (16～19歳)																																																																																
初期値(掲載)	12年度: 22.3%																																																																																
目標値	24年度: 100%																																																																																
18実績値	18.4%																																																																																
指標	避妊法を正確に知っている人 (16～19歳)																																																																																
初期値(掲載)	12年度: 28.0%																																																																																
目標値	24年度: 100%																																																																																
18実績値	42.2%																																																																																
指標	正しい性感染症の知識を持つ人 (16～19歳)																																																																																
初期値(掲載)	12年度: 4.6%																																																																																
目標値	24年度: 100%																																																																																
18実績値	6.0%																																																																																
指標	【相談・指導件数】 指導																																																																																
初期値(掲載)	15年度: 3,070件																																																																																
目標値																																																																																	
16実績値	3,171件																																																																																
17実績値	2,970件																																																																																
18実績値	2,882件																																																																																
指標	【避妊法を正確に知っている人】 (16～19歳)																																																																																
初期値(掲載)	12年度: 28.0%																																																																																
目標値	24年度: 100%																																																																																
18実績値	42.2%																																																																																
指標	【正しい性感染症の知識を持つ人】 (16～19歳)																																																																																
初期値(掲載)	12年度: 4.6%																																																																																
目標値	24年度: 100%																																																																																
18実績値	6.0%																																																																																
19年度見込	H18年度同様の内容で実施		18年度同様の内容で実施																																																																														
備考 (特記事項)		平成18年度は相談件数が前年度の2倍以上に増加した。これは、平成18年秋以降いじめに関する関心が高まり、その対策の一環として「相談窓口周知ポスター」「相談カード」を作成・配布したことが背景にあると思われる。																																																																															

基本目標4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	保健福祉局	保健福祉局	教育委員会	教育委員会																								
担当(部)	保健福祉局保健福祉部	保健福祉局保健福祉部	生涯学習部	教育委員会総務部																								
基本目標 - 基本施策	4-3 (再掲 3-3)	4-3	4-3	4-3																								
事業名	思春期特定相談事業	思春期精神保健 ネットワーク会議	家庭教育学級事業	楽しさとゆとりのある 給食推進事業																								
事業概要	心の問題に悩んでいる青少年(概ね12~20歳)や家族に対して、電話や面接による相談を行うとともに、青少年に携わる専門職に対して、コンサルテーション(指導・助言)や研修会、講演会を企画する。	思春期(概ね12~20歳)の精神保健に携わる保健福祉・医療・教育・司法の各関係機関が、相互に情報交換を行うとともに、複雑困難ケースについて検討を行うなど、思春期精神保健対策の円滑な推進を図ることを目的として開催する。	家庭における教育力の向上を図るため、家庭教育の知識・子どもの心理の理解・親の役割などについて、相互に計画的・継続的に学習する場として開設する。	近年の生活環境の変化や食環境の変化など将来的かつ今日的な課題を踏まえ、学校給食のより一層の充実のために、食事環境の整備、献立内容の充実、家庭との情報交換による連携強化の推進などを主な内容として実施する。																								
指標	【相談件数】 電話相談		【開設学級数】	【食事環境整備校数】																								
初期値 (計画掲載)	14年度:321件		15年度:180学級	15年度:246校																								
目標値	---		21年度:210学級	17年度:305校																								
16年度実績	264件		196学級	277校																								
17年度実績	377件		200学級	305校																								
18年度実績	357件		206学級	305校																								
18年度実施状況等 実施内容	1.電話相談:357件 2.来所相談:134件 3.コンサルテーション:14件 4.研修会「“あたりまえ”の子育てと発達障がい支援」 日時:19年3月9日 対象者:市民、保健・医療・福祉・教育関係職種 参加人数:155名	会議開催1回(19年10月17日)	家庭における教育力の向上を図るため、幼稚園・小学校・中学校のPTAに事業を委託し、家庭教育学級を開設。  開級数 ・幼稚園 29学級 ・小学校 144学級 ・中学校 33学級	9年の札幌市学校給食運営委員会からの提言を指針として、児童生徒をとりまく社会や生活環境の変化等を踏まえ、学校給食のより一層の充実のため11年度を初年度として「楽しさとゆとりのある給食推進事業」を実施しており、食事環境未改善の小・中学校について、食器の改善及びランチルームの整備を順次行った。 主な内容は、以下のとおり。 ・給食用食器をステンレス製から強化磁器に改善 ・食器保管室及び食器消毒保管庫等の整備 ・ランチルーム用の備品・消耗品の整備																								
	その他の設定指標		その他の設定指標	その他の設定指標																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>【相談件数】 来所相談</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初期値(掲載)</td> <td>14年度:114件</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>---</td> </tr> <tr> <td>⑯実績値</td> <td>77件</td> </tr> <tr> <td>⑰実績値</td> <td>100件</td> </tr> <tr> <td>⑱実績値</td> <td>134件</td> </tr> </tbody> </table>	指標	【相談件数】 来所相談	初期値(掲載)	14年度:114件	目標値	---	⑯実績値	77件	⑰実績値	100件	⑱実績値	134件			<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>【ランチルーム用備品整備状況】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初期値(掲載)</td> <td>15年度:80%</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>17年度:100%</td> </tr> <tr> <td>⑯実績値</td> <td>89.2%</td> </tr> <tr> <td>⑰実績値</td> <td>99.7%</td> </tr> <tr> <td>⑱実績値</td> <td>99.7%</td> </tr> </tbody> </table>	指標	【ランチルーム用備品整備状況】	初期値(掲載)	15年度:80%	目標値	17年度:100%	⑯実績値	89.2%	⑰実績値	99.7%	⑱実績値	99.7%
	指標	【相談件数】 来所相談																										
初期値(掲載)	14年度:114件																											
目標値	---																											
⑯実績値	77件																											
⑰実績値	100件																											
⑱実績値	134件																											
指標	【ランチルーム用備品整備状況】																											
初期値(掲載)	15年度:80%																											
目標値	17年度:100%																											
⑯実績値	89.2%																											
⑰実績値	99.7%																											
⑱実績値	99.7%																											
19年度見込	電話相談 来所相談 コンサルテーション	ネットワーク会議開催	幼稚園・小学校・中学校あわせて210学級で家庭教育学級を開設。	17年度で食事環境整備終了																								
備考 (特記事項)				[ランチルーム用備品整備] ※未整備の1校(大規模改築予定:羊丘中)は、19年度の改築時に整備。																								



## 基本目標 4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	教育委員会	教育委員会	教育委員会	保健福祉局
担当(部)	生涯学習部	生涯学習部	生涯学習部	保健福祉局保健福祉部
基本目標 - 基本施策	4-4 (再掲 4-3)	4-4	4-4	4-4
事業名	家庭教育学級事業	学校開放地域活動モデル事業	学校図書館地域開放事業	福祉読本の発行
事業概要	家庭における教育力の向上を図るため、家庭教育の知識・子どもの心理の理解・親の役割などについて、相互に計画的・継続的に学習する場として開設する。	子どもを豊かに育てていくための地域教育力の向上を図り、学校と地域との連携を図ることを目的として、自然体験学習や社会体験活動、世代間交流など子ども向けのプログラムを企画・実施するほか、地域人材の情報収集と活用、学校施設利用のあり方の検討などを行う。	学校の図書室を地域における身近な文化施設として開放し、子どもや地域住民の読書活動を盛んにするとともに、読書を通じて子どもと大人、大人相互の交流の場を広げ、地域の教育力向上と子どもの健全育成を図る。	小学校高学年を対象とした福祉読本を発行し福祉の啓発を図るとともに、障がいのある人や高齢者に対する正しい知識の理解促進を図る。
指標	【開設学級数】	【実施校数】	【開設校数】	
初期値 (計画掲載)	15年度:180学級	15年度:25校	15年度:78校	
目標値	21年度:210学級	21年度:55校	21年度:96校	
16年度実績	196学級	30校	81校(新設3校)	
17年度実績	200学級	35校	84校(新設3校)	
18年度実績	206学級	40校	87校(新設3校)	
18年度実施状況等	<p>家庭における教育力の向上を図るため、幼稚園・小学校・中学校のPTAに事業を委託し、家庭教育学級を開設。</p> <p>開級数 ・幼稚園 29学級 ・小学校 144学級 ・中学校 33学級</p>	<p>各運営委員会において、子ども向けプログラムや地域人材活用等の事業を実施。</p> <p>○事業回数 184回(うち子ども向けプログラム 141回) ○参加者数 25,822名 内訳)運営側 2,829名 子ども 17,304名 大人 5,689名</p> <p>※主な活動内容:教育講演会、おりがみ教室、ほたる放流・観察会、読み聞かせ会、自転車安全点検、地域ふれあいコンサートなど。</p>	<p>&lt;事業の活動内容&gt; 図書館の基本的業務(図書の設定・貸出・管理・環境整備等)。レファレンスサービス、図書の紹介など利用者に対する情報の提供。ボランティアの資質向上のための研修会。読み聞かせなどによる学校教育への支援。子どもや大人向け行事の企画・実施。広報活動。</p> <p>&lt;18年度実績&gt; ◎ボランティア数:3,974人 ◎延べ開館日数:9,317日 ◎延べ貸出冊数:1,089,780冊 ◎延べ利用者数:590,052人 ◎蔵書数:969,203冊</p>	<p>小学校高学年用の福祉読本「みんなのしあわせ」の発行。</p> <p>発行部数17,000部</p> <p>市内の各小学校・養護学校へ配布。</p>
19年度見込	幼稚園・小学校・中学校あわせて210学級で家庭教育学級を開設。	実施校45校(新規校5校)	開放校90校(新設3校) (小学校89校、中学校1校)	福祉の啓発を図るとともに、障がいのある人や高齢者に対する正しい知識の理解促進を図るため、引き続き福祉読本の発行を行う。
備考 (特記事項)				

基本目標 4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	子ども未来局	子ども未来局	子ども未来局	子ども未来局
担当(部)	子ども育成部	子ども育成部	子ども育成部	子ども育成部
基本目標 - 基本施策	4-4 (再掲 4-1)	4-4	4-4 (再掲 2-4-4)	4-4 (再掲 2-4-4)
事業名	地域ふれあい体験事業	少年団体活動補助事業	児童会館・ミニ児童会館 整備事業	児童会館・ミニ児童会館事業
事業概要	地域の人々が習得している昔遊びや工芸、染め物などの伝承文化、体験談や暮らしの知恵など豊かな経験を広く子どもたちに継承し、多様な価値観を身に付けながら主体的に行動できる青少年の育成を図る。	市内で活動する少年団体(子ども会、ボーイスカウト、ガールスカウト、海洋少年団)の活動に対して、一部補助を行う。	放課後児童の健全育成のために、児童会館や小学校施設内に児童会館機能を備えたミニ児童会館を整備する。	児童の文化的素養等を培うため、児童会館やミニ児童会館において、児童・父母が共に参加できる親子工作会、スポーツ大会などの各種つどいやクラブ・サークル活動(一輪車、卓球、工作など)、野外活動(キャンプ、ハイキングなど)、自主活動(自由遊び、各種ゲームなど)を行う。
指標	【参加者数】	【団体加入者数】	【整備済施設数】	【利用児童数】
初期値 (計画掲載)	15年度: 1,560人	15年度: 45,331人	16年度: 125館	15年度: 2,205,729人
目標値	21年度: 1,560人	21年度: 46,000人	21年度: 145館	21年度: 2,206,000人
16年度実績	1,000人	42,985人	129館	2,264,587人
17年度実績	1,835人		129館	2,264,587人
18年度実績	1,400人程度		144館	2,428,211人
18年度実施状況等 実施内容	主に小学校1年生から高校3年生と、地域の大人たちを対象として、各区3回単位子ども会が独自で事業を実施した。	社団法人札幌市子ども会育成連合会に対して、3,600,000円の補助を行った。	・ミニ児童会館8館(三角山小ミニ、拓北小ミニ、豊園小ミニ、平岸高台小ミニ、澄川南小ミニ、藤野南小ミニ、西園小ミニ、新発寒小ミニ)を整備。  ※北郷児童会館改築に伴う基本設計の実施。	・児童会館子育てサロンの実施(99館で週1回)。  ・中高校生の夜間利用(20館で週2回)。  ・その他は継続実施。
19年度見込	19年度も、18年度と同様に実施する。	社団法人札幌市子ども会育成連合会に対して、同額補助を行う予定。	155館 (ミニ児童会館11か所整備予定。) ※北郷児童会館改築に伴う実施設計実施。	2,450,000人 (ミニ児童会館の整備で、利用者の増加が見込まれる。)
備考 (特記事項)		17年度より、ボーイスカウト・ガールスカウト・海洋少年団に対する補助金は廃止		

基本目標 4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	子ども未来局	子ども未来局	教育委員会	子ども未来局
担当(部)	子ども育成部	子ども育成部	生涯学習部	子ども育成部
基本目標 - 基本施策	4-4	4-4	4-4	4-4 (再掲 3-2)
事業名	子どもに関する広報・啓発事業	子どもに関する市民学習事業	青少年指導者育成事業	青少年育成委員会事業
事業概要	子どもに関する育成事業や相談窓口、非行の未然防止等に関する必要な情報を広報誌等により発信することにより、非行防止に関する啓発活動を実施する。	子どもの保護者、地域などで育成に関する人などに、子どもの育成に必要な知識や情報などを提供するため、アシスト講座、アシスト出前講座及び少年問題を考える研修会を実施する。	子どもたちの野外活動の指導やさまざまな実践活動を支援するボランティア人材を育成する。	地域における青少年育成を推進する担い手として、連合町内会単位に各地区青少年育成委員会を設置(90地区・1,800人)し、文化体験・スポーツ大会など青少年に関わる健全育成事業や地域における環境対策事業を推進する。
指標		【参加者数】	【登録者数(累計)】	
初期値 (計画掲載)		15年度:3,100人	15年度:1,600人	
目標値		21年度:4,000人	21年度:2,260人	
16年度実績		3,032人	1,691人(累計)	
17年度実績		3,420人	1,764人	
18年度実績		1,782人	1,824人	
18年度実施状況等	<p>【広報紙「あしすと」】 思春期における様々な問題を抱える子どもの保護者に各種事業を紹介すること、また青少年の健全育成に係る情報を広く提供することを目的として、保護者向けの広報紙「あしすと」を年3回発行した。各小学校の5～6年の児童、各中学校1～3年の生徒を通じて、保護者に配布した。</p> <p>【相談カード】 例年、子どもたちやその保護者に身近な相談機関を周知するため、市内の小学4年生・中学1年生全員に「相談カード」を配布している。18年度はこれに加え、秋以降に関心が高まったいじめ問題への対策の一環として、市内の小中高校の全クラスに「相談窓口周知ポスター」、小学4年生～中学校3年生までの全児童生徒に「相談カード」を配布した。</p>	<p>【あしすと出前講座】 思春期の子どもに関する情報を広く市民に提供するため、子どもアシストセンターの少年育成指導員が講師として、PTAや地域の様々な団体等を対象に、要請に応じた講座を実施した。 実施回数:36回 参加者数:1,725人</p> <p>【市民アシスト講座】 子どもアシストセンターの少年育成指導員が、思春期の子どもや保護者や育成活動に興味のある市民を対象に、相談・巡回指導業務から見える子どもの姿について講演を実施した。 実施日:18年9月6日(水) 会場:STV北2条ビル6階1号会議室 共通テーマ「子どもを取り巻く社会環境」 講演Ⅰ「子どもたちの居場所」について考える 講演Ⅱ「中・高校生の性被害」 参加人数:57人</p>	<p>《野外活動指導員研修》 自然の中で野外活動を行う市民に対し、野外活動の技術等の指導ができる青年ボランティアを養成し、その普及と振興を図ることを目的に実施している。 受講者:28人 修了者:13人</p> <p>《野外活動基礎技術指導者養成講座》 多くの市民に対し野外活動の基礎的な知識及び技術を伝えることにより、自然を生かした野外活動の普及発展及び振興を図ることを目的に年2回実施している。 受講者:32人</p> <p>《札幌市青少年指導者養成講座》 高卒以上25歳未満の方を対象に、グループワークに関して、講義と実践を行う。1年目は基礎編、2年目は実践編の内容で実施している。 受講者:21人</p>	<p>○多様な体験機会や社会参加の場を提供する事業の実施。 ・スポーツ事業 ・文化体験事業 ・レクリエーション事業 など ○環境対策事業の実施 ・地域安全パトロール ・子どもにとって有害な環境の排除活動 ・地域安全マップづくり など ○子どもたちの健全な育成のための啓発活動及び学習会の開催 関係団体との連携 ・交流会議・情報交換 ・共催事業の開催 ・関係団体の活動支援 など ○その他 ・関係団体が実施している青少年健全育成に係る研修会への参加 ・成人の日行事 など</p>
19年度見込	広報紙「あしすと」については、年2回の発行を予定。相談カードについては、例年同様に7月頃に配布。	市民アシスト講座については、実施しない。	18年度同様の内容で実施する。	19年度も18年度同様に地域の青少年健全育成事業等を推進する。19年1月に開設した札幌市青少年育成委員会のHPを有効活用し、札幌市青少年育成委員会やその活動についての広報を行う。
備考 (特記事項)		「少年問題を考える研修会」については、16年度をもって終了した。		

基本目標 4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	観光文化局	教育委員会	教育委員会	環境局
担当(部)	スポーツ部	生涯学習部	中央図書館	みどりの推進部
基本目標 - 基本施策	4-4	4-4	4-4	4-4
事業名	体育指導委員事業	PTA活動の支援事業	子ども向け図書資料の充実	市民スキー山及びスケート場 設置運営補助事業
事業概要	体育指導委員が各地域のスポーツ団体等と連携を保ちながら、市民の健康・体力づくりのために事業の企画・運営及び指導を行うとともに、市及び各区の体育事業へ参加・協力する。	青少年の健全育成や、学校、家庭、地域の連携を推進するPTAの指導者養成や諸事業についての支援を行う。	図書館(室)は、子どもたちにとっても地域の身近な情報拠点として、図書資料を通して社会・文化・知識・市民生活等への関心や教養を深め、また、必要とする情報を提供する施設であることから、必要な図書資料の充実を図る。	小・中学生の健全育成を図るため、町内会等が冬期間のレクリエーションの場として設置するスキー山、スケート場の造成・運営に要する経費の一部を助成する。
指標		【セミナー参加者数】	【蔵書冊数】	
初期値 (計画掲載)		15年度:873人	15年度:515,842冊	
目標値		21年度:1,050人	21年度:540,000冊	
16年度実績		1,039人	522,090冊	
17年度実績		678人	534,454冊	
18年度実績			90,517冊(中央図書館)	
18年度実施状況等	<p>体育指導委員が企画・運営・協力し各種スポーツイベントを各区で開催 《スポーツイベント・開催日・(区)》※ 抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウインタースポーツフェスタ2/11～12(中)</li> <li>・スノーホッケー大会2/4(北)</li> <li>・冬レクフェスタinさとらんど2/10～12(東)</li> <li>・しるいし区民ふれあい健康マラソン大会9/24(白)</li> <li>・少年少女ドッジボール大会2/18(厚)</li> <li>・少年野球大会7/2・9(豊)</li> <li>・雪華まつり子ども雪合戦大会2/18(清)</li> <li>・少年少女親善スポーツ大会11/12(南)</li> <li>・少年少女相撲大会11/26(西)</li> <li>・スポーツレクリエーション祭8/27(手)</li> </ul>	<p>1 札幌市PTA協議会補助 2 札幌市私立幼稚園PTA連合会補助</p>	<p>限られた予算(15年度比で約2割減)をより質の高い図書資料の購入に充てることで資料の充実を図りながら各館において図書資料の購入を行なった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民スキー山 1か所(東区新生公園)</li> <li>・市民スケート場 1か所(東区新生公園)</li> </ul> <p>利用者 延べ約9,400人</p>
19年度見込	18年度と同様の内容で開催予定	1 札幌市PTA協議会補助 2 札幌市私立幼稚園PTA連合会補助	引き続き充実に努める。	18年度と同じ
備考 (特記事項)				

## 基本目標 4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	教育委員会	教育委員会	教育委員会	教育委員会
担当(部)	生涯学習部	生涯学習部	生涯学習部	中央図書館
基本目標 - 基本施策	4-4	4-4	4-4	4-4
事業名	青少年科学館管理運営事業	野外教育施設管理運営事業	青少年施設管理運営事業	(仮称)札幌市子どもの読書活動推進計画策定
事業概要	日進月歩の科学技術と未来社会に対応するため、青少年の科学に対する関心を高めるとともに、科学する心を培い、創造性豊かな青少年の育成を目的として各種事業を実施する。	札幌市の恵まれた自然を生かした自然体験活動施設である、国営滝野すずらん丘陵公園内の青少年山の家と支笏洞爺国立公園内の定山溪自然の村において、青少年の野外活動に関する様々な事業を実施する。	青少年の健全な育成などを目的として青少年センターや勤労青少年ホーム(5館)において、各種講座やサークル活動の支援・指導、相談業務、青少年のグループ活動の場の提供などを行う。	すべての子どもがあらゆる機会と場所において、自主的な読書活動ができる環境整備を推進するため、平成17年度を目的に「子どもの読書活動の推進に関する法律」の目的・基本理念に沿った総合的な計画を策定する。
指標	【観覧者数】	【利用者数】	【利用件数】	
初期値 (計画掲載)	15年度:362,066人	15年度:41,872人	15年度:16,754件	
目標値	21年度:388,000人	21年度:75,000人	21年度:18,000件	
16年度実績	306,975人	45,854人	16,907件	
17年度実績	359,959人	47,602人	17,114件	
18年度実績	292,854人	49,357人	18,248件	
18年度実施状況等	<p>青少年の科学に対する関心を高め、科学する心を培い、創造性豊かな青少年を育成することを目的として、昭和56年に開館。</p> <p>展示は、青少年が気軽に利用しながら、科学技術について正しい理解ができるように配慮されている。</p> <p>また、知的・創造的な遊びの場として興味を誘うよう、各展示物は島状に配した探索型で、見学者が自由に好きな展示物に触れ合えるように展示されている。</p>	<p>《青少年山の家》 元9月、大型の野外教育施設として国営滝野すずらん丘陵公園内開設し、滝野の豊かな自然環境はのびのびとした野外教育活動や自然探求などの学習条件に恵まれ、登山・ハイキング・歩くスキー等のスポーツ活動も楽しめる。 利用者数:36,901人</p> <p>《定山溪自然の村》 子供から高齢者までの幅広い年齢層の市民が家族や小グループで利用できる「市民開放型施設」、多様な自然体験や野外活動を行うことのできる「自然体験型生涯施設」を目指した野外教育施設として開設。 利用者数:12,456人</p>	<p>青少年センター、勤労青少年ホームにおいて、各種講座の開催やサークル活動の支援、相談業務、交流事業、社会参加活動などを実施。</p>	<p>17年12月に幹事会・ワーキング会議を開催、18年3月には内部連絡会を開催し、18年6月には、学校図書館地域開放、関係ボランティアの参加により連絡会を開催した。</p> <p>図書館においては、19年3月に元町図書館に東区の幼稚園、保育所等の関係者を集め、図書館所蔵図書のリサイクルによる地域の連携について、アンケート等に基づき意見交換を行い、職員による読み聞かせを保育園で行った。</p>
19年度見込	継続して実施する。		平成18年度同様の内容で実施する。	計画上の取組を引き続き進めるとともに、計画の効果的な推進に努める。
備考 (特記事項)		両施設とも利用者数の増加に係るPR活動に努める。		

基本目標 4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	教育委員会 教育委員会総務部	教育委員会 教育委員会総務部	教育委員会 教育委員会総務部	教育委員会 教育委員会総務部												
基本目標 - 基本施策	4-5	4-5	4-5 (再掲 4-3)	4-5												
事業名	(仮称)札幌市幼児教育 振興計画策定	札幌市教育推進計画策定事業	楽しさとゆとりのある 給食推進事業	学校適正配置計画策定												
事業概要	少子化、都市化、核家族化など幼児や家庭をとりまく社会環境の変化に対応するため、幼稚園における①幼児教育機能の充実②預かり保育※等保育機能の充実③教育相談等子育て支援の強化④保育所や小学校等との連携などに関する新たな教育計画を平成17年度を目途に策定する。	一人ひとりの個性や特性を伸ばし、21世紀を担う、新しい時代を創造する子どもたちを育むために、主に義務教育を対象とした中長期的な推進計画と、その実行プログラムを策定する。	近年の生活環境の変化や食環境の変化など将来的かつ今日的な課題を踏まえ、学校給食のより一層の充実のために、食事環境の整備、献立内容の充実、家庭との情報交換による連携強化の推進などを主な内容として実施する。	少子化が進み児童生徒数が減少していく中で、良好な教育環境を確保するため、市内小・中学校の学校適正配置計画を平成17年度を目途に策定する。												
指標			【食事環境整備校数】													
初期値 (計画掲載)			15年度:246校													
目標値			17年度:305校													
16年度実績			277校													
17年度実績			305校													
18年度実績			305校													
18年度実施状況等 実施内容	17年12月、公私の役割の見直しを含めた中・長期的な幼児教育振興のための指針として、「札幌市幼児教育振興計画」を策定し、その内容について、計画的かつ段階的に、具体的施策・事業を検討していくため、18年12月に「札幌市幼児教育振興計画アクションプログラム」を策定した。	札幌市教育改革進捗管理会議開催 19年3月12日(月)	9年の札幌市学校給食運営委員会からの提言を指針として、児童生徒をとりまく社会や生活環境の変化等を踏まえ、学校給食のより一層の充実のため11年度を初年度として「楽しさとゆとりのある給食推進事業」を実施しており、食事環境未改善の小・中学校について、食器の改善及びランチルームの整備を順次行った。 主な内容は、以下のとおり。 ・給食用食器をステンレス製から強化磁器に改善 ・食器保管室及び食器消毒保管庫等の整備 ・ランチルーム用の備品・消耗品の整備  その他の設定指標 <table border="1"> <tr> <th>指標</th> <th>【ランチルーム用備品整備状況】</th> </tr> <tr> <td>初期値(掲載)</td> <td>15年度:80%</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>17年度:100%</td> </tr> <tr> <td>16実績値</td> <td>89.2%</td> </tr> <tr> <td>17実績値</td> <td>99.7%</td> </tr> <tr> <td>18実績値</td> <td>99.7%</td> </tr> </table>	指標	【ランチルーム用備品整備状況】	初期値(掲載)	15年度:80%	目標値	17年度:100%	16実績値	89.2%	17実績値	99.7%	18実績値	99.7%	「札幌市立小中学校の学校規模の適正化に関する基本方針」(以下「基本方針」)および「札幌市立小中学校の学校規模の適正化に関する地域選定プラン」(以下「地域選定プラン」)の策定に向けた検討を進めた。
指標	【ランチルーム用備品整備状況】															
初期値(掲載)	15年度:80%															
目標値	17年度:100%															
16実績値	89.2%															
17実績値	99.7%															
18実績値	99.7%															
19年度見込	札幌市幼児教育振興計画アクションプログラムを基に、具体的に事業を進めていくための(仮)構想案を策定する。	札幌市教育改革進捗管理会議開催 19年9月及び20年3月	17年度で食事環境整備終了	基本方針(素案)および基本方針(素案)に基づいて策定する地域選定プラン(案)を作成、公表し、パブリックコメントを経て、年度内の基本方針および地域選定プランの策定を目指す。												
備考 (特記事項)			[ランチルーム用備品整備] ※未整備の1校(大規模改築予定:羊丘中)は、19年度の改築時に整備。	19年8月の市議会文教委員会において、基本方針(素案)および地域選定プラン(案)について報告。												

基本目標4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	教育委員会	教育委員会	教育委員会	教育委員会
担当(部)	教育委員会総務部	学校教育部	学校教育部	学校教育部
基本目標 - 基本施策	4-5	4-5	4-5 (再掲 2-5-2)	4-5 (再掲 2-5-2)
事業名	学校施設整備事業	魅力ある高校づくり	特別支援教育基本計画に基づく学びの支援プランの推進	特別支援教育基本計画に基づく地域学習の推進
事業概要	児童生徒が学習する場であるとともに、一日の大半を過ごす生活の場でもある学校の環境を改善・充実するため、施設の新増築や大規模改造等を計画的に進めていく。	平成15年2月に策定した札幌市立高等学校教育改革推進計画に基づき、生徒の多様化や社会の変化に対応し、主体的で意欲的な学習を促すため、各学校の特色づくりを進めるとともに、単位制や午前、午後、夜間の三部制を取り入れた新しいタイプの定時制高校を設置する。	乳幼児期から社会人への移行期までの継続的な相談・支援が行えるよう関係機関と連携した相談体制の充実を図り、「学びの手帳」を発行するなど、学びを支援するための総合的な取組みを「学びの支援プラン」として推進する。	盲・聾・養護学校等に在籍する児童生徒が、自分の暮らす地域での学習活動等を通じて地域の子どもたちとふれあうことを目的とした「地域学習校」の取組みを行うとともに、「地域学習モデル事業」を実施し、「地域学習校」を中心とした支援のあり方について調査・研究を行い、その充実を図る。
指標				【取組み学校数】
初期値 (計画掲載)				15年度:151校
目標値				
16年度実績				
17年度実績				
18年度実績				
18年度実施状況等	<p>1.分離新設事業 なし</p> <p>2.増築事業 なし</p> <p>3.改築事業 信濃小学校(校舎・屋運)を改築 伏見中学校(校舎)を改築</p> <p>4.大規模改造事業 小学校5校、中学校3校を大規模改造</p> <p>5.教室整備事業 小学校3校、中学校2校で多目的教室整備 小学校6校、中学校1校で不足教室整備</p> <p>6.プール・格技場整備事業 信濃小学校プールを改築</p>	<p>午前部・午後部・夜間部の三部制、単位制を取り入れた、新しいタイプの定時制高校として新設する(仮称)市立札幌大通高等学校については、20年4月を目標に、旧大通小学校跡地に開校する方向で、以下の内容を中心として準備を進めた。</p> <p>○学識経験者、学校関係者、保護者、市立高校定時制課程生徒等からなる校名検討委員会を設置し、名称を市民から公募し、校名案「(仮称)市立札幌大通高等学校」を取りまとめた。</p> <p>○新定時制高校の教育方針及び教育内容等を、「基本構想」として決定した。</p>	<p>乳幼児期から学校卒業までの継続した相談・教育的支援を行うため、必要な情報が一括してファイリングできる「学びの手帳」を発行し、引き続き、教育センターにおける教育相談の際に、希望する保護者に対して配布した。</p> <p>(発行数 1,000冊)</p>	<p>17年度に引き続き、学校におけるボランティアネットワークの構築や運営の在り方等の調査研究を行い、その成果を継続的・機動的なボランティア活動の基礎づくりに活用していくため、「学校支援ボランティア導入モデル事業」を実施した。(保護者への配慮から、「特別支援教育ボランティア導入モデル事業」から名称変更)17年度は肢体不自由の児童を対象に2校のモデル事業校で実施したが、18年度は対象を発達障がいのある児童生徒等にも拡大し、6校のモデル事業校で実施した。</p>
19年度見込	<p>東白石中(校舎)、羊丘中(校舎)、北野中(屋運)の改築、小学校3校、中学校2校で大規模改造、小学校2校、中学校1校で多目的教室整備、小学校7校、中学校3校で不足教室整備を行う予定</p>	<p>○(仮称)市立札幌大通高等学校については、継続して準備を進める。</p> <p>○札幌市立高等学校教育改革推進計画及び札幌市教育推進計画に基づき、本市にふさわしい中高一貫教育校の設置の可否について、検討を進める。</p>	<p>18年度に引き続き、教育センターにおける教育相談の際だけではなく、特殊学級に在籍している子ども及び通級指導教室で指導を受けている子どもの保護者で、希望する保護者等に対して「学びの手帳」を配布する。</p> <p>(発行予定数 2,000冊)</p>	<p>「学校支援ボランティア導入モデル事業」を引き続き実施し、その成果を特別支援教育支援員の活用に応用する。</p>
備考 (特記事項)				

## 基本目標 4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	教育委員会	教育委員会	教育委員会	教育委員会
担当(部)	学校教育部	学校教育部	学校教育部	学校教育部
基本目標 - 基本施策	4-5 (再掲 2-5-2)	4-5 (再掲 2-5-2)	4-5	4-5
事業名	養護学校看護師配置モデル事業	特殊学級の整備推進	学生ボランティア事業	不登校対策事業
事業概要	養護学校における医療的ケア体制の今後のあり方を検討・実証するためのモデル事業を行う。	特別な教育的支援が必要な児童生徒に対し、ニーズに応じた指導を行う特殊学級の整備を推進する。	学校の教育活動を支援する学校外からの参加・協力の一方策として、大学においてを募集する学生を各学校へ派遣し、子ども一人ひとりの個に応じた教育活動を支援する。	学校における不登校の予防や取組、関係機関との連携などを支援するとともに、相談体制の充実を図り、学校復帰に向けた取組を行う。
指標		【設置学校数の割合】		【市立中学校・高校スクールカウンセラー配置】
初期値 (計画掲載)		16年度:33%		16年度:57校
目標値		18年度:40%		17年度:106校(全校)
16年度実績		33%		57校
17年度実績		36%		106校(全市立中、高等学校)
18年度実績		43%		106校(全市立中、高等学校)
18年度実施状況等	<p>文部科学省のモデル事業は16年度で終了したが、適正な看護師配置のデータ収集、看護師と教職員との連携方法等の調査研究が更に必要となっていることから、本市独自の北翔・豊成看護師配置モデル事業を実施することとした。</p> <p>【調査研究事項】 医師、看護師、教員、保護者の連携による医療的ケアの在り方</p>	<p>18年度は、小学校については、養護学級10校及び情緒障がい学級9校、中学校については、養護学級を3校及び情緒障がい学級6校の開設校の増となった。</p> <p>【特殊学級設置率】 (養護学級、情緒障がい学級のみ) 小学校 45% 中学校 39%</p>	<p>・18年5月から19年2月までを期間として実施した。 ・ボランティア内容は、教科指導の補助、部活動指導の補助、軽度発達障害の児童生徒への補助等である。 ・5月12日(金)学生ボランティア派遣校への説明会を実施した。</p>	<p>・スクールカウンセラーを全市立中学校(98校)、全市立高等学校(9校)に配置した。 ・不登校等対策講師派遣事業により、市立小・中・高等学校に講師を年間35回派遣した。 ・不登校担当教諭を対象とした連絡会議(不登校対策連絡会議)を小中合同で開催した。参加者:約300名 ・スクーリング・サポート・ネットワーク(SSN)整備事業において、関係機関が集まる情報の交換や、臨床心理士を教育センター相談室及び相談指導学級へ派遣し、不登校の解決に向けて専門的な見地から助言を受けるなど、不登校児童生徒の学校復帰に向けての支援を行った。</p>
19年度見込	<p>看護師複数配置のもと、看護師、学校、保護者、専門機関等の連携のあり方について調査研究を行う。</p>	<p>19年度は、小学校については、知的障がい学級を12校、情緒障がい学級を17校に開設するとともに、中学校については、知的障がい学級を1校、情緒障がい学級を2校に開設する。</p>	<p>・複数の大学との連携を図り、ボランティア学生を希望する小中学校への派遣者を増やす。</p>	<p>スクールカウンセラーが全市立中・高等学校に配置され3年目になることから、効果と活用の在り方について分析と検証をする。また、今年度から小学校への派遣時間を確保したこと、小学校での有効活用について検討していく。</p>
備考 (特記事項)				



基本目標4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	教育委員会	教育委員会	教育委員会	教育委員会
担当(部)	学校教育部	学校教育部	学校教育部	学校教育部
基本目標 - 基本施策	4-5	4-5	4-5	4-5
事業名	学校研究モデル事業	国際理解教育促進事業	地域に開かれた 学校づくりの推進	学校評議員制度 (類似制度を含む)の活用
事業概要	これまでの学校研究委託事業の質の向上と内容の深化拡充を目指し、本市の学校教育の充実・向上に資する目的で、学校・園に、「札幌市学校教育の重点」等にかかわる学校教育推進上の諸課題についての実践的研究を委託する。	市立中学校、高等学校における英語教育において、生徒のコミュニケーション能力の育成及び教職員研修の一助として外国語教育の改善に資する目的で、「語学指導等を行う外国語青年招致事業(JETプログラム)」により、外国語指導助手を招致している。今後は、JETプログラム以外の採用を視野に入れながら、外国語指導助手の一層の増員を図る。	総合的な学習の時間等において、地域の人材を積極的に活用した教育活動を支援するとともに、開かれた学校の創造に関する実践的な研究を行う。	学校が保護者や地域住民の意向を把握・反映し、その協力を得るとともに、学校運営の情報等を提供するなど、開かれた学校づくりを進めるため、地域住民や保護者等の中から学校評議員を委嘱する。
指標				【実施校の割合】
初期値 (計画掲載)				15年度:30.2%
目標値				18年度:100%
16年度実績				70.4%
17年度実績				84.7%
18年度実績				100.0%
18年度実施状況等	<p>○18年度学校研究委託事業と名称及び内容を見直す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究モデル校(3年研究) 22校</li> <li>・研究校(1年研究) 20校</li> <li>・研究ベース校(1年研究) 8校</li> </ul> <p>募集 4月3日(月) 中間学習会 9月5日(火)、7日(木)、12日(火) 発表会 2月23日(金)26日(月) 研究集録 2月上旬発行</p>	<p>○外国語指導助手(43名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・35名(JETプログラムによる外国語指導助手)</li> <li>・8名(Non-JETによる外国語指導補助業務委託)</li> </ul> <p>【派遣内訳】</p> <p>○中学校(33名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点校配置(8か月程度): 25校、</li> <li>・準拠点校(学期派遣): 13校、</li> <li>・マンスリー校(1~2ヶ月): 60校</li> </ul> <p>○高等学校(10名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間常駐で1名配置:5校、</li> <li>・2名配置:2校、</li> <li>・*さらに週1日分の追加配置を実施週派遣:1校</li> </ul> <p>○小学校・養護学校(中学・高等学校配置の外国語指導助手を活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・384日の派遣を実施</li> </ul> <p>○養護学校等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5校</li> </ul>	<p>○学校研究委託事業の内</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究校(1年研究)の「研究課題」として、「総合的な学習の時間」「地域の教育資源を生かす取組」「安全教育」「地域と連携した環境教育」の研究を行う。</li> <li>・研究ベース校(1年研究)の「研究課題」として、「学校運営」の研究を行う。</li> </ul> <p>中間学習会 9月7、12日 発表会 2月23日(金)26日(月) 研究集録 2月上旬発行</p>	<p>・類似制度を含めて、全市立学校において設置し、創意工夫をしながら活用に努めている。</p>
19年度見込	学校研究委託事業として、学校モデル校、研究校、研究ベース校の3類型によって、研究を深める。	継続して実施	学校研究委託事業として、研究委託校に1年研究を委託する。	・類似制度を含めて、100%の学校で導入済み
備考 (特記事項)				

基本目標4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	教育委員会	教育委員会	教育委員会	教育委員会
担当(部)	学校教育部	学校教育部	学校教育部	学校教育部
基本目標 - 基本施策	4-5	4-5	4-5	4-5
事業名	少人数指導や習熟度別 学習の実施	幼児教育相談	教育相談	公開講演会
事業概要	各学校において「生きる力」を育むために、これまで以上に個に応じたきめ細かな指導の充実を図ることが必要であり、そのための授業改善の方策の一つとして、少人数指導や習熟度別学習を実施する。	来所及び電話により、就学前の幼児の「発達上の問題」、「幼稚園等における適応上の問題」、「保護者の子育ての悩み」などに関する教育相談を行う。	来所及び電話により、不登校や特別支援教育に関わる教育相談に応じる。	一般市民や教職員を対象に、子育て支援、特別支援教育、不登校等への支援、その他教育に関する今日的テーマに添って公開講演会を開催する。
指標	【実施校の割合】	【来所相談件数】	【来所相談件数】	【参加者数(年5回)】
初期値 (計画掲載)	15年度:93.8%	15年度:220件	15年度:2,000件	15年度:927人
目標値				21年度:1,300人
16年度実績	98.3%	440件	2,666件	1,032人
17年度実績	97.7%	417件	2,999件	1,070人
18年度実績	97.7%	417件	2,994件	925人
18年度実施状況等 実施内容	TT、習熟度別指導を含めた少人数指導について、指導方法の工夫など、内容の充実を図っている。	障がい等に関する相談411件 子育てに関する相談 6件	不登校等に関する相談 1,494件 特別支援教育に関する相談 1,500件	4回実施 参加人数計925名
19年度見込	継続実施	継続実施	継続実施	継続して実施
備考 (特記事項)	・小中学校対象			

基本目標4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	教育委員会	環境局	環境局	保健福祉局
担当(部)	中央図書館	環境事業部	環境事業部	保健福祉局総務部
基本目標 - 基本施策	4-5	4-5	4-5	4-5
事業名	総合的な学習の時間の支援	太陽光発電設置事業	学校ビオトープづくり事業	社会福祉協力校指定事業
事業概要	小・中・高等学校の「総合的な学習の時間」において、図書館が持つ調査・研究のための図書資料や情報を提供し、学習目的の達成を図るための支援を行う。	学校教育と連動した環境教育を推進するため、小学校等の市施設へ太陽光発電を設置するとともに、教育施設等への自然エネルギーの有効利用を進める。	学校教育と連動した環境教育を推進するため、生きた環境教育の教材として市内小学校に「学校ビオトープ」を整備する。	児童・生徒の社会福祉への理解と関心を高めるため、札幌市社会福祉協議会が実施する社会福祉協力校事業に対する補助を行う。
指標	【受入人数】	【太陽光発電設置数】	【ビオトープ設置学校数】	【指定数(累計)】
初期値 (計画掲載)	15年度:3,523人	15年度:4施設	15年度:7校	15年度:305校
目標値	21年度:5,500人	16年度:5施設	16年度:13校	
16年度実績	2,251人	5施設(1増)	13校(6校増)	318校
17年度実績	3,310人	6施設(1増)	15校(2校増)	326校
18年度実績	1,408人	7施設(1増)	16校(1校増)	329校
18年度実施状況等	<p>具体的な支援として、以下の取組を引き続き進めている。</p> <p>①図書館利用手引書(指導者教諭用)の配布 ②図書館調べ学習手引書(児童・生徒用)の配布 ※上記①②の手引書は、中央図書館ホームページにも掲載 ③図書資料及び情報の提供 ④図書館利用ガイダンスの実施 ⑤職業体験の受入 ⑥図書館運営の説明 ⑦図書館調べ学習講座の開講(小学生向け・中学生向け)</p>	<p>信濃小学校に太陽光発電設備を設置した。また、パンフレットを作成し、児童へ配布した。</p> <p>・太陽光発電設備 設置場所:信濃小学校校舎屋上 設備規模:10kW級1箇所 パンフレット作成:1300部</p>	<p>17年度より、自主的な整備意欲のある小学校に対し支援を行う「学校ビオトープづくり支援事業」を行っている。</p> <p>【18年度整備校】 幌南小学校</p>	<p>福祉活動の普及や啓発に積極的 に取り組む小学校・中学校・高等学校 に対し、福祉協力校として指定 し、活動費の助成を行った。</p> <p>[新規指定校]3校 [継続指定校]21校 [指定終了校]305校 [指定期間]3年間 [助成額]年間10万円</p>
19年度見込	実施を継続する。	手稲区前田中央小学校に太陽光発電(10kW規模)設置予定。	支援希望校の募集を行った。(2校を予定)	新規4校の指定を見込んでいる。
備考 (特記事項)			19年度の募集を行ったが、支援希望する学校が無かった。	

基本目標4：次代を担う心身ともにたくましい人づくり

担当(局)	経済局	総務局	消防局
担当(部)	農務部	国際部	予防部
基本目標 - 基本施策	4-5 (再掲 4-1)	4-5	4-5 (再掲 4-1)
事業名	サッポロさとらんど農業体験学習	国際交流員の派遣	「教えて！ファイヤーマン」事業
事業概要	将来を担う市内小学生を対象に、農業体験交流施設(サッポロさとらんど)を利用して、農業体験学習を通じ「食と農の関わり」への知識や理解を深めると共に、農業の大切さと魅力、農業・農村の果たしている役割について学びながら、「食育」の重要性を認識してもらう。	小・中・高等学校における総合的な学習の時間において、札幌国際プラザへの視察受入や国際交流員の派遣を実施することにより、国際理解及び国際交流の推進を図る。	小学4年生の児童を対象として、第一線で働いている消防職員が小学校の教壇に立ち、消防に関する知識を教えるほか、煙からの避難や119番通報、消防隊が災害現場で使用する資機材に触れてもらう等の体験を通じて、消防の仕事に対する興味・関心を高め、その役割を理解してもらうと共に「命の尊さ」を伝えることを目的とする。
指標	【参加人数】	【受入・派遣回数】 受入	【受入・派遣回数】 派遣
初期値 (計画掲載)	17年度:8,000人	14年度:21回	14年度:32回
目標値	21年度:50,000人	21年度:50回	21年度:100回
16年度実績	【17年度新規事業】	18回	33回
17年度実績	9,230人	18回	12回(アンケートのみの実施2回を含む)
18年度実績	77,483人	18回	12回(アンケートのみの実施2回を含む)
18年度実施状況等	<p>収穫体験 アスパラ、エダマメ、ダイコン、カボチャ、トウキビ、サツマイモ、タマネギなど 収穫加工体験 ジャガイモ3日間、大豆4日間コースなど その他市民農園、手作り体験など</p> <p>親子18,981組参加</p>	小・中・高等学校における総合的な学習の時間において、札幌国際プラザへの視察受入や国際交流員の派遣を実施することにより、国際理解及び国際交流の推進を図った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の体験談の他、スライド画像を使用して「消防の仕事」を分かりやすく説明。</li> <li>・119番通報の模擬体験、煙の中からの避難体験、水消火器による消火体験。</li> <li>・災害現場で使用する資機材等の展示、着装体験。</li> </ul> <p>市立小学校203校で実施</p>
19年度見込	18年度とほぼ同様の企画を実施する。	小・中・高等学校における総合的な学習の時間において、札幌国際プラザへの視察受入や国際交流員の派遣を実施することにより、国際理解及び国際交流の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての小学校に設置されているAED(自動体外式除細動器)の取扱い方法について、授業内容に組み込む。</li> </ul> <p>市立小学校203校で実施予定</p>
備考 (特記事項)	大志塾運営にもさとらんどが協力している。		

基本目標 5：子どもと子育て家庭にやさしいまちづくり

担当(局)	都市局	保健福祉局	環境局	環境局
担当(部)	市街地整備部	保健福祉局保健福祉部	みどりの推進部	みどりの推進部
基本目標 - 基本施策	5-1	5-1	5-1	5-1
事業名	公的住宅の供給	福祉のまちづくり環境整備事業	個性あふれる公園整備事業	公園・緑地等の整備
事業概要	市営住宅の募集時において、母子(父子)・多子・大家族等の世帯に対しては、一般世帯に比べて当選確率を高める優遇制度を設けており、今後、さらにその拡大について検討を進める。	札幌市福祉のまちづくり条例に基づき、妊産婦の方や高齢の方及び障がいのある方等の社会参加を促進し、誰もが安心して快適に暮らせるまちづくりを進めるため、地下鉄駅にエレベーター等を設置する。	開設後概ね20年以上経過した街区公園や近隣公園を、周辺環境の変化や利用実態、市民ニーズ等を踏まえ、地域に親しまれる公園に再整備している。平成15年度子ども議会から子どもの声を反映してほしい旨の提案があり、今後も計画段階から積極的に、子どもを含めた幅広い市民参加による公園づくりを実施する。	環境保全・防災、景観形成、レクリエーションといった緑がもつ様々な機能を十分発揮させるために、身近な緑を増やし、均衡のとれた街並み形成を図るとともに、今ある緑を保全・育成する。
指標	【市営住宅当選確率】	【整備済の地下鉄駅数】 (片側ホームのみの設置駅は含まない)		【市民一人当たり公園緑地面積】
初期値 (計画掲載)	15年度: 2倍(一般世帯比)	15年度: 37駅		10年度: 21.6㎡
目標値	21年度: 拡大方向で検討	21年度: 46駅		32年度: 約40㎡
16年度実績	3倍(一般世帯比)	39.5駅		25.8㎡
17年度実績	3倍(一般世帯比)	42駅		25.9㎡
18年度実績	3倍(一般世帯比)	43駅		27.1㎡
18年度実施状況等 実施内容	引き続き優遇制度を実施した(一般世帯比3倍、16年度より実施)。	中島公園駅、エレベーター等設置。 49駅中43駅	18年度: 19公園 (工事施工: 11公園・実施設計: 8公園)	都市公園整備: 32箇所 緑地保全地区取得: 3地区 都市環境緑地取得整備: 2地区
	18年度と同じ内容で実施する。	南郷7丁目駅、バスセンター前駅に、エレベーター等設置予定。 49駅中45駅予定。	実施設計+工事施工: 2公園 工事施工: 8公園 実施設計: 10公園 計: 20公園	都市公園整備: 23箇所 緑地保全地区取得: 2地区 都市環境緑地取得整備: 2地区
19年度見込				
備考 (特記事項)				

基本目標 5：子どもと子育て家庭にやさしいまちづくり

担当(局)	観光文化局	環境局	市民まちづくり局	市民まちづくり局
担当(部)	スポーツ部	みどりの推進部	地域振興部	地域振興部
基本目標 - 基本施策	5-1	5-1	5-2	5-2
事業名	市民運動広場整備事業	冬の公園利用の活性化事業	スクールゾーン実行委員会の設置	札幌市交通安全運動推進委員会の活動支援
事業概要	子どもや家族を主体としたスポーツ活動の環境づくりを目指し、北区新琴似に多目的・平面系の市民運動広場を整備するための検討を行う。	地域住民が主体となった冬の公園利用のきっかけづくりや冬季屋外活動の指導員養成などにより冬の公園利用活性化を図る。	子どもの交通安全を図る目的から、小学校から半径概ね500mの範囲をスクールゾーンとして設定するとともに、行政・地域・学校・運転者が協力して「スクールゾーン実行委員会」を組織し、登下校時の通学指導を実施する。	交通安全教育の充実、交通道德の普及、交通安全運動の展開等により、交通安全への取組みを推進し、子どもの安全確保に努める。
指標		【公園における冬季イベント開催件数】		
初期値 (計画掲載)		14年度:304件		
目標値		18年度:350件		
16年度実績		310件		
17年度実績		284件		
18年度実績		291件		
18年度実施状況等	実施内容	<p>地下水位、地下水質、発生ガスについてモニタリング調査を実施し、地下水位、地下水質、発生ガスについてモニタリング調査の結果を得た。</p> <p>市民団体との共催による「旭山冬のフェスティバル」の実施 【日時】 19年2月18日(土) 【場所】 旭山記念公園 【内容】 スノーシューを使用した自然観察会、イグルーづくり、スノーキャンドル、雪と氷の実験等 【参加者】 100名</p> <p>町内会、学校等による冬季公園利用 【内容】 冬(雪)祭り、歩くスキー、雪中運動会、スノーキャンドル等</p>	<p>スクールゾーン実行委員会の活動を支援し、児童の登下校時における交通安全確保に努めた。</p>	<p>幼児・児童に対する交通安全教育をきめ細かく実施するとともに、学校区ごとに交通安全指導員を配置し、児童の登下校時における交通安全の確保に努めた。</p> <p>また、新入学児童に対する「黄色いランドセルカバー」及び「交通安全小冊子」の配布をはじめ、年3回の長期休み前には交通安全資料やポスターを各学校や児童会館等に配布し、交通安全意識の高揚を図った。</p> <p>小学校・幼稚園・保育園における交通安全教室実施状況(18年度) 実施回数: 延べ1,454回 参加者数: 延べ156,603人</p> <p>交通安全指導員数(18年度末) 829人</p>
	19年度見込	<p>今後も当分の間、モニタリング調査の経過を見定める。</p> <p>18年度と同じ内容で実施する予定</p>	<p>引き続きスクールゾーン実行委員会の活動を支援し、児童の交通安全確保に努める。</p>	<p>引き続き、幼児・児童への交通安全教育や啓発活動の充実を図るとともに、地域の自主的な活動を支援し、子どもの交通安全確保に努める。</p>
備考 (特記事項)		<p>当事業は他の事業へ統合する予定であり、単独事業としては廃止となる。</p>		

基本目標 5：子どもと子育て家庭にやさしいまちづくり

担当(局)	市民まちづくり局	教育委員会
担当(部)	地域振興部	教育委員会総務部・ 学校教育部
基本目標 - 基本施策	5-2	5-2
事業名	安全・安心なまちづくり推進事業	学校安全教育等の推進
事業概要	積極的な取組みを行っている自治体の状況や、市民の現状認識・意向などについての調査を行い、「安全・安心なまちづくり」を実現するために、地域防犯という視点での施策展開の検討を進める。	学校施設や周辺の点検、幼稚園や学校における危機管理マニュアルの作成、警察等との協力による防犯教室の実施、子どもが自分の身を守ることの大切さやその手立てについて様々な機会をとらえて指導することにより、学校安全教育の一層の推進を図る。
指標		
初期値 (計画掲載)		
目標値		
16年度実績		
17年度実績		
18年度実績		
18年度実施状況等	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>18年12月、防犯活動に関する具体的なノウハウや情報、札幌市の取組みなどの情報提供を目的とした「札幌市地域防犯ガイドブック」を作成し、広く市民に提供した。同ガイドブックにおいて、子どもの安全対策に関する章を設け、子ども見守り活動の実施や子ども自身が行うべき防犯対策、地域安全マップの作成などについての情報提供・啓発を行った。</li> <li>地域防犯ガイドブック発行部数 ガイドブック 6,000部 概要版 24,000部</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏、冬、学年末の年3回、幼児児童生徒の安全確保にかかわる通知を出している。</li> <li>・生徒指導研究協議会において「子供の安全」を研究協議のテーマの1つに設定し、特色ある事例の交流を行った。</li> <li>・子供の安全を守る取組について学校に研究を委託し、その結果を学校研究委託発表会やその内容等を集録した研究紀要を通して各学校への啓発を行った。</li> <li>・「児童生徒の安全に関する事例集」を市立学校に配布し、安全に関する取組の充実を図った。</li> <li>・地域と連携した児童の安全を守る取組に対する実態調査を行い、取組状況を把握した。</li> <li>・学校で巡回・警備等に従事するスクールガードを地域の人材から委嘱する文部科学省の「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」を実施した。</li> </ul>
19年度見込	引き続き、ガイドブックの提供を行うとともに、ガイドブックの内容に則した出前講座を実施することで更なる情報提供・啓発に努める。	学校で巡回・警備等に従事するスクールガードを全ての区に配置し、整備する。
備考 (特記事項)		

